

リアホナ

©2003 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, Salt Lake City, Utah. All rights reserved. ISSN 1341-8995

純粹な宗教 2ページ

簡単なことから始める
家族歴史, 12ページ

リアホナ



表紙

写真/ロバート・ケーシー、写真はイメージです。「父親、夫を失った人への神の愛」2ページ参照



「フレンド」表紙

写真/ジョン・ルーク、写真はイメージです。「初等協会の昔と今」14ページ参照



28ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ—父親、夫を失った人への神の愛
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 12 あなたの家族歴史—始めること
十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー
- 25 家庭訪問メッセージ—試練を通して強められるよう備える
- 28 教会で受けた最初の割り当て 地域幹部七十人 ジョン・A・ハリス
- 34 イエスのたとえ—タラントのたとえ 七十人 ロナルド・A・ラズバンド
- 38 イエスの言葉—復活から昇天まで 七十人 D・リー・トブラー
- 42 末日聖徒の声
サリーがほほえんだから ジェニファー・L・マッケード
憤りを捨てよ ワンダ・ジョー・クック
「天のお父様の愛」 リカルド・ロベス・デ・メンドンサ
裏口の鍵を閉めなさい! ケリー・アレン・プラット
セミナーで祝福を受けて フアン・ミゲル・アギーレ・エンカルナシオン
- 48 「リアホナ」2003年8月号の活用法

青少年

- 8 輪を開いて ジャン・ピンボロー
- 18 髪の毛なんて ジュリー・ハウスホルダー
- 22 質疑応答—教会では、して良いことと悪いことを具体的に挙げたリストを作らないのでしょうか。
- 26 全部話さない ドン・カルロス・ビダル
- 32 友情の網 七十人 リチャード・H・ウインゲル
- 47 御存じでしたか?



8ページ参照

フレンド

- 2 預言者の声—信仰は道を照らす
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 4 分かち合いの時間—しんじゃのもはん
ビッキー・F・マツモリ
- 6 しんでんカード
- 7 友だちになろう—香港に住むタム・ホイフン
エミリー・チェンとティファニー・E・ルイス
- 10 新約聖書ものがたり—シモンとしんけん
／タバタを生きかえらせるペテロ
- 14 初等協会の昔と今

「フレンド」14ページ参照



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンスバウンダー

顧問:J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウェスト
実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケープ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー, オーヌ・スーザン・パレット, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリオン・ポーター・ガント, ジャナ・ガスナビ, ジェニファー・L・グリーンウッド, リサ・アン・ジャクソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, メリン・ミンソン, サリ・J・オデカー, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ジョナサン・H・ステイブソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリー, ジャネット・トーマス, ポール・バンテンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェップ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・バン・カンペン
制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ポット, ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, プレント・クリスティン, シャーラ・クック, ケリー・リン・C・ヘリン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・ティアー, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
 Room 2420, 50 East North Temple Street,
 Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
 Eメール: cur-iahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウエー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2003 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所: 日本

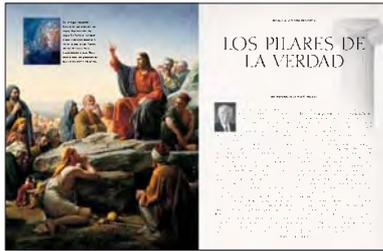
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines August 2003.
 Japanese. 23988 300

For Readers in the United States and Canada:

August 2003 no. 8 IAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



真理の柱

『リアホナ』にとっても感謝しています。読むのが楽しく、記事はイエス・キリストの福音の特質を具体的に示しています。すべての末日聖徒がこのすばらしい道具を手に入れることを願います。特にわたしは、2002年5月号の大管長会メッセージ「真理の柱」が心に響きました。わたしたちには真理があり、毎日そのことに感謝を示す必要があります。

コロンビア・バランキーヤ・パラインステーク
 パラインワード
 エドアルド・アロヨ・テヘラン

すばらしい記事に感謝します

わたしが教会員となる以前に、後にわたしの妻となる女性が『リアホナ』を1冊見せてくれました。そのとき何か特別なものを感じました。改宗までの間、^{あかし}霊の証人がわたしに福音の真实性を証してくれました。わたしが真理を受け入れられるように、優しく導いてくださる聖霊の穏やかなささやきを感じました。

わたしは、力を尽くしてくれる妻と、このように美しい記事を書いてくださる靈感を受けた兄弟姉妹に感謝いたします。『リアホナ』を受け取るのは喜びです。全部読み終わるまで読むのをやめられません。

パラグアイ・フェルナンド・デ・ラ・モラ
 南ステーク, イトロロ支部
 アルフレド・ホセ・カネパ

「誘惑との闘い」

『リアホナ』はわたしの人生に多くの助けを与えてくれました。2001年11月号の「誘惑との闘い」のアイデアリストに深く感動しました。宣教師として誘惑を克服するのに役立ちました。ほかの人々もこの記事によって助けられていることを願います。

ナイジェリア・ポートハーコート伝道部
 シェリー・T・コラー姉妹

イエス・キリストについて証する

わたしは学校で様々な宗教を学んできました。先生は、わたしともう一人の教会員である友達のアンドレッサに、イエス・キリストについて話すよう言いました。

発表を始めるとたくさんの友達が笑いましたが、わたしたちは屈しませんでした。主の生涯について、誕生から復活まで話しました。終わったとき、笑ったり困らせることを言ったりする人がたくさんいて、とても悲しくなりました。目の前でドアをバタンと閉められる宣教師たちのことを思い、自分も似たような経験をしているのだと実感しました。わたしは、イエス・キリストが御自身の命をささげてわたしたちの罪のために苦しまれたことを証しました。

最後には、担任の先生やそのほかの大勢の先生から、知らなかったことを教えてくれてありがとうと感謝されました。
 ブラジル・ナタール・ポテンギステーク,
 ポテンギワード
 クレア・デ・ソーザ・リラ, 14歳



父親，夫を失った人への

神の愛

第一副管長

トーマス・S・モンソン

何年も前、ドイツのベルリンで教会の大きな集会に出席した時のことです。賛美歌のオルガンによる前奏が流れる中、静かで敬虔な雰囲気が辺りを包んでいました。その場に集まった人々を眺めると、母親、そして父親がいます。子供は比較的少数でした。こみ合うベンチに座っていたのはほとんどが中年の女性で、それも独り身のような様子でした。

不意に気がついたのは、この女性たちは恐らく第二次世界大戦で夫を亡くした人たちではないかということです。やがて心の中の疑問に対して、どうしても答えが欲しくなりました。そこで司会者に、該当する人は立つように言ってもらえないか、とお願いしました。司会者が「ご主人を亡くされた方はお立ちください」と言うと、その大勢の会衆の半分ほどが立ちました。その表情には戦争の悲惨さが如実に表れています。望みは断たれ、人生は曲げられ、ある意味で将来までも取り去られてしまったのです。その表情の裏には、人知れず涙に暮れた苦悩の日々が隠されていました。わたしは彼女たちに、そして最愛の人を亡くしたすべての人に向けて語りました。

死に憐れみはない

今の時代、新聞の死亡記事に掲載される人々の生涯は、恐らくこれほど残酷で劇的なものではないでしょう。しかし、悲しみは同じです。死という招かれざる敵がこの世の生涯に入り込み、わたしたちの手から愛する夫や大切な妻、そしてしばしば若さにあふれる子供や孫を奪っていくのです。死に憐れみはありません。死は人を偏り見ず、ひそやかにすべての人を訪れます。それは病気などによる長い苦しみの後の祝福となることもあるでしょう。でも、人生の盛りに突如として人を襲うこともあるのです。

いつの時代も、悲しみに打ちひしがれた人々は、昔から繰り返されてきた問いを心の中で幾度もつぶやきます。「ギレアデに乳香」はないのだろうか。¹「なぜわたしに。なぜ今。」美しい賛美歌の歌詞が答えの一部を与えてくれます。

平安はどこに、慰めはどこに
わたしを完全な者とする泉が涸れるとき
心が傷つき、怒りや恨みを抱くとき
魂の安らぎをどこに求めるのか

主はひそかにこたえ、手を差し伸べ
わたしのゲツセマネに来てくださる
救い主、友として



**次のことを
心に留めましょう。
葬儀の花がしぼみ、
友人たちの弔問が
思い出となり、
ささげられた祈りと
語られた言葉が
心の片隅に消えるとき、
彼女たちは
悲しみに加え、
しばしば孤独感に
さいなまれるのです。**

主は願いを聞き届け
終わりのない愛と憐れみを示される²

ザレパテのやもめ

夫を亡くした女性の窮状は、聖典のあちこちに繰り返し登場します。ザレパテのやもめの話には深い悲しみを覚えます。夫はすでに亡くなり、わずかな食物も底を尽きました。飢えと死が待ち受けていました。そこに神の預言者がやって来て、一見厚かましいとも取れる要求を突きつけます。食べ物を持って来てください、と言うのです。やもめの答えは非常に心を打ちます。「あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ2、3本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」³

しかし、エリヤの確信に満ちた言葉がやもめの魂を貫きました。

「『恐れるにはおよばない。行って、あなたが言ったとおりにしなさい。しかしまず、それでわたしのために小さいパンを、一つ持って持ってきたさい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。』

「……かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない」とイスラエルの神、主が言われるからです。」

彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。……

……かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。」⁴

ナインのやもめ

ナインのやもめもザレパテのやもめと似ています。新約聖書は悲しみに沈むやもめへの主のこまやかな思いやりを感動的に記録しています。

「そのち……ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒に行った。

町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。大ぜい

の町の人たちが、その母につきそっていた。

主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、『泣かないでいなさい』と言われた。

そして近寄って棺ひつに手をかけられると、かついでいる者たちが立ち止まったので、『若者よ、さあ、起きなさい』と言われた。

すると、死人が起き上がって物を言い出した。イエスは彼をその母にお渡しになった。」⁵

わたしたちの模範である主は、何という力、優しさ、思いやりを示されたことでしょうか。わたしたちも主の高貴な模範に従うことによってのみ、人に祝福をもたらすことができます。機会はどこにでもあります。必要なのはいたわしい状況を見る目と、悲しむ人の無言の願いを聞く耳、そして、そうです、思いやりに満ちた心です。そうすれば目と目で、声と耳でだけでなく、救い主の偉大な方法ならに倣って、心と心で意思を通わせることができるのです。

「孤独な人を喜ばせなさい」

この「やもめ」という言葉は、救い主にとって非常に重要な意味があったようです。救い主は弟子たちに、律法学者の行いに気をつけるように言われました。彼らは長い衣を着て長い祈りをすることで義人を装い、一方でやもめたちの家を食い倒すのです。⁶

主はニーファイ人に率直に警告されました。「わたしはあなたがたに近づいて、裁きをなし……やもめ……を虐げる者……あかしに対して速やかに証を立てる。」⁷

預言者ジョセフ・スミスに主は言われました。「倉は教会員の奉獻によって維持しなければならない。そして、やもめと孤児を扶養しなければならない。貧しい者も同様である。」⁸

普通、夫を亡くした女性の家は大きくはなく飾りけがありません。狭くてつましいことが多いのです。しばしば階段を上り詰めた所にある隅の部屋であったり、廊下の陰の間であったりします。そのような家に主は皆さんとわたしを遣わされるのです。

食物や衣服、住む場所にさえ事欠いているかもしれません。それらのものを提供しましょう。そうした贈り物は、必ずや魂を満たす希望となることでしょう。



**女性だけではなく、
男性も伴侶を失って
孤独を味わって
いるのです。
クリスマスを待つ
必要はありません。
感謝祭まで待つ
必要もありません。
わたしたちは今、
「行って同じように
しなさい」という
心のもった救い主の
勧告に従うのです。**



夫を失った女性が必要としているのは、食べ物や住む所よりも、何かの活動の仲間に加わっているという意識であることが往々にしてあります。

孤独に悲しむ者を訪れよ
涙を流し疲れている者を慰めよ
行く先々に親切な行いをふりまけ
そして今日、世の中をもっと明るくするのだ⁹

次のことを心に留めましょう。葬儀の花がしばみ、友人たちの弔問が思い出となり、ささげられた祈りと語られた言葉が心の片隅に消えるとき、彼女たちは悲しみに加え、しばしば孤独感にさいなまれるのです。小さな子供たちの笑い声はなく、10代の若者たちの活気は消え、伴侶の優しい思いやりはもうありません。時計の音は大きく聞こえ、時はゆっくりと過ぎ、周囲の壁は牢獄ろうごくにいるような気持ちにさせます。

願わくは、善い行いを求められた主のあの言葉が、わたしたちの耳にもう一度こだましますように。「これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにした

のである。」¹⁰

故りチャード・L・エバンズ長老は、次のように勧告を与え、わたしたちに配慮と行動を促しています。

「わたしたちが心をかけ、力にならなければ孤独な生活を余儀なくされる人々がまだ身の回りにいます。わたしたち年若い者は、自分の関心事に没頭するあまり、その事実を忘れてはなりません。わたしたちも昔、彼らから心をかけてもらっていたのです……。

老いた者たちに若さを取り戻させることはできません。しかし、わたしたちの思いやりと物質的な助けと、行動を伴った、見せかけでない愛によって、その黄金の晩年をもっと美しいものとすることはできます。熟年は世代から世代へ愛が伝えられ、奉仕がなされる時です。神の助けがあって、わたしたちに託された人々が孤独を味わうことのないように願っています。」¹¹



「熟年は世代から世代へ愛が伝えられ、奉仕がなされる時です。神の助けがあって、わたしたちに託された人々が孤独を味わうことのないように願っています。」

「手配していただけますか」

昔、ソルトレーク盆地がひどい干ばつに見舞われたことがありました。ウェルフェアスクウェアの倉庫の物資は質、量ともに低下していました。食料品の多く、特に新鮮な果物が不足していました。若い監督であったわたしは、ワードに大勢いる、夫を亡くした姉妹たちのことで心を痛め、ある晩、特別で神聖な祈りをささげました。「この世の女性の中で最も素晴らしいこの女性たちが必要としているものは、ごく質素で控えめなものです。でも頼るべきところがありません」と嘆願したのです。

翌朝、ワードのある会員から電話がありました。ワードの区域内で農業を営んでいる人です。彼はこう言いました。「監督、オレンジとグレープフルーツとバナナをトレーラー1台分、監督の倉に提供しますから、困っている人のために使ってください。手配していただけますか。」わたしは大喜びで引き受けると、倉庫に連絡を取り、ほかの監督たちに電話をしました。こうしてすべてが配達されました。

果物を惜しみなく提供してくれたその経営者も、奥さんを残して亡くなりました。しか

し、夫婦で決意して行ったあのことは、奥さんの胸に美しい思い出として、慰めと平安をもたらしたことでしょう。

感謝

わたしは夫に先立たれた女性を心にかけている大勢の方々に、心から感謝しています。彼女たちを夕食に招いている、思いやりにあふれた近所の方々や、高貴な女性たちのすばらしい組織、すなわち扶助協会の訪問教師の皆さんに感謝しています。今は亡き人々の面影を追い、今は亡き声を懐かしむ残された女性に対し、皆さんは変わらぬ愛と親切を示しています。皆さんのうえに神の祝福があるよう願っています。預言者ジョセフ・スミスの次の言葉は、扶助協会の姉妹たちの使命を表したものです。「わたしは要請を受けて女性扶助協会に出席しました。この組織は、貧しい者や悲しんでいる者、夫を亡くした女性や孤児に手を差し伸べるために、またあらゆる慈善を目的とした行いをするためにあります。」¹²

食べ物の棚が空にならないように、また家に愛がなく、祝福の注がれない状態で放置されることのないように配慮している、思いやりに富んだ監督の皆さんに感謝します。伴侶を亡くした女性をあらゆる社交活動に招き、そのような場でしばしば若いアロン神権者をエスコートとして付けてくださるワードの指導者を褒めたたえます。

伴侶を失った人々

夫を失った女性が必要としているのは、食べ物や住む所よりも、何かの活動の仲間に加わっているという意識であることが往々にしてあります。七十人のH・ブライアン・リチャーズ長老が、ある美しい女性をわたしのオフィスに連れて来たことがありました。夫婦で専任宣教師として伝道中、ご主人を亡くした方でした。リチャーズ長老の話では、この女性は経済的に恵まれているので、ご主人が亡くなって受け取った二つの保険金を教会の中央伝道基金に寄付したいとのことでした。彼女が穏やかに次のように言ったとき、わたしは涙を禁じ得ませんでした。「どうしてもそうしたいのです。伝道が大好きだった夫もそう望んでいると思います。」



普通、夫を亡くした女性の家は大きくはなく飾りけがありません。そのような家に主は皆さんとわたしを遣わされるのです。

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその一例です。

1. 担当家族の知っている人で、^{はんりょ}伴侶を亡くした人や親のいない子供たち全員の名前を書き出してもらおう。モンソン副管長のメッセージから、夫を失った人やそのほかの人々が直面すると思われるチャレンジを家族が実感できるような項を読む。初めに名前を挙げた中のだれかを喜ばせるように勧める。

2. 担当家族に、独りで住んでいる人々を訪ねたとき、あるいは何か奉仕をしたときの経験について話すよう勧める。モンソン副管長の「感謝」の項を読む。その後、メッセージの最後の項を声に出して読み、孤独な^{あかし}人々を思い起こすことによって得られる祝福について証を述べる。

についてだれにも話しませんでした。そして、神を身近に感じました。

クリスマスを待つ必要はありません。感謝祭まで待つ必要もありません。わたしたちは今、「行って同じようにしなさい」¹³ という心のこもった救い主の勧告に従うのです。

主の足跡に従い、主の御心^{みこころ}と業に思いをはせ、主の戒めを守るとき、わたしたちは祝福を受けます。伴侶を失い悲しみに暮れている人、父親のいない子供など、至る所にいる孤独な人々は、わたしたちの奉仕によって喜びと慰めを得、力づけられます。そしてわたしたちはヤコブの手紙に記録された次の言葉をいっそう深く理解するのです。「父なる神のみまえに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。」¹⁴ ■

注

1. エレミヤ8：22
2. “Where Can I Turn for Peace?”『賛美歌』(英文) 129番
3. 列王上17：12
4. 列王上17：13-16
5. ルカ7：11-15
6. ルカ20：46-47参照
7. 3ニーファイ24：5
8. 教義と聖約83：6
9. “Make the World Brighter” *Deseret Sunday School Songs* (1909年), 197番
10. マタイ25：40
11. *Thoughts for One Hundred Days* (1966年), 222
12. *History of the Church*, 第4巻, 567
13. ルカ10：37
14. ヤコブの手紙1：27

この寄付は受領され、伝道活動に対する多額の献金となりました。彼女の名前で領収書が切られましたが、天でも記録されたと信じています。わたしはこの女性とリチャーズ長老を、教会執務ビル内のだれもない大管長会評議会室に招きました。平安を感じられる美しい部屋です。そして彼女に、ふだん大管長が使ういすに座ってもらいました。大管長は優しい人ですから、気に留めないと分かっていました。

彼女は大きな革のいすにおずおずと腰を下ろし、両方のひじかけに手を置くと言いました。「人生最良の日です。」リチャーズ長老にとっても、わたしにとってもそうでした。

わたしは車の行き交うソルトレーク・シティー東7番街を通るとき、思いやりに満ちたある女性のことを思い出さずにはいられません。関節炎に苦しみながらも、この女性は交通の激しい通りの反対側に住む年老いた母親のもとに、温かな食物を届け続けたのです。今や、一足早く亡くなった母親と、幕のかなたでともいますが、この教訓は彼女の娘たちに引き継がれました。娘たちは、伴侶に先立たれた父親の家を毎週きれいにし、自宅での夕食に招き、ともに楽しい時を過ごし、父親の心に、子供たちについて感謝の祈りをささげたいという気持ち呼び起こしたのです。子供たちは父親にとって人生の光となりました。女性だけではなく、男性も伴侶を失って孤独を味わっているのです。

清い信心

クリスマスの夕べに、妻とわたしはソルトレーク・シティーの老人ホームを訪れました。そこで、夫を失った95歳になるある女性を捜しましたが、なかなか見つけれませんでした。彼女の記憶はもう薄れ、言葉も満足に話せません。やがて職員に案内されてついて行くと、ネルという名のその女性は食堂にいました。食事は済んでいましたが、ひっそりといすに座ったまま、うつろな目をしています。わたしたちにはまったく気づいていないようです。手を取ろうとすると、引っ込めてしまいました。見ると、クリスマスカードをしっかりと握っています。職員がほほえみながらこう言いました。「送り主は知りませんが、手放そうとしないんです。何も話さないのですが、カードをなでたり、手に持ってキスをするんですよ。」わたしはそのカードに見覚えがありました。前の週に、妻のフランシスが彼女に送ったものでした。

わたしたちは来たときよりもっとクリスマスの精神に満たされて帰途に就きました。その特別なカードの送り主や、カードが一人の人生に喜びを与え、心の琴線に触れたこと



若い女性 一人一人

人が少女たちの
手を取り、輪の中へ
連れて入りました。
少女全員が
輪に加わるまで
繰り返したのです。

写真/スティーブ・バンダーソン、写真はイメージです。

輪を 開いて

ジャン・ピンボロー

輪は閉い込むことも、
締め出すこともできます。
それを決めるのは
わたしたちです。

わたしは若い女性の指導者として、これまで何度か新年度セミナーに出席してきました。しかし親として長女と一緒に新年度セミナーに参加してみると、新たな視点に立つことができました。

プログラムが始まるのを待っている間、これからの数年間、娘はどんな経験をするのか考えずにはいられませんでした。ワードの若い女性たちは娘を受け入れてくれるでしょうか。友達になってくれるでしょうか。指導者たちは娘を愛し、これから直面する困難な時期に相談相手となってくれるでしょうか。

開会の祈りの後、年長の若い女性と指導者たちは部屋の真ん中で手をつないで輪を作り、きれいな歌を歌い始めました。

わたしたちの輪は友情の輪

友情は輪のように、いつまでも切れることはない

終わりなく、永遠に続く友情の輪

さあ中に入って、あなたはここに属するのだから¹

そして16歳か17歳の若い女性が一人の少女の手を取り、輪の中へ連れて入りました。それから再び歌を歌って、少女全員が輪に加わるまで繰り返したのです。

それからの数週間、この歌が無駄な約束ではないことを知りました。すばらしい現実を表していたのです。ワードの若い女性は娘をただ受け入れただけではなく、心を開いて迎え入れてくれたのです。同年代の女の子たちは、すぐに娘と友達になってくれました。また、年長の若い女性は娘を大事な妹のように、さらに指導者たちはいとしい娘のように接してくれました。娘を輪の中に迎え入れ、必要とされ、大事にされ、愛されていることを娘に感じさせてくれた若い女性と指導者たちにどれほど感謝したことでしょう。今でもその気持ちは変わりません。

天の御父も親として同じような気持ちでわたしたちを見守っておられるのでしょうか。わたしたちは輪を開いて、神の子一人一人をその中に迎え入れているのでしょうか。

当然ながら、輪を使って簡単に人を締め出すこともできます。新しいワード、学校、クラスに入ったとき、すでに輪に入っている人たちが「このゲームは締め切り。もうだれも入れない」という童謡の言葉を言い合っていたことはありませんか。わたしたちの多くが、輪の中に入れてもらえない苦い経験があるのではないのでしょうか。

「人に親切にするのはもっと良い」

では、輪が人を締め出すものではなく、受け入れるものであるようにするにはどうしたらよいのでしょうか。それはとても簡単な認識から始まります。すなわち、この地上で学ばなければならない主要な特質の一つが親切であるということです。ある家族の子供たちは、学校の成績、音楽、そのほかほとんどすべてにおいて非常にすばらしい才能を持っていました。あるとき、わたしがその家の子供たちを

褒めていると、その母親が一つのことを言いました。その言葉は今でも忘れられません。「頭が良いのは立派なことだけど、人に親切にするのはもっと良いことよって言い聞かせているの。」

考えてみると、確かにそうでした。子供たちの才能は実に大したものでした。けれどもわたしがあの子たちを評価する理由は、自分を良く見せるために人をさげすむことが決してないからです。だれに対しても、とても親切なのです。

これは、主が最も高く評価されることの一つではないでしょうか。愛についての使徒パウロの有名な言葉を言い換えるところになります。たとえ学校で成績が良く、セミナーのマスター聖句をよく知っていて、サッカーチームの最優秀選手であっても、また、大きな奉仕プロジェクトを計画したり、様々な楽器を弾けたりしても、ほかの人に親切でないならば、わたしの成果はどれもあまり価値がないのです（1コリント13：1-3参照）。

度を過ぎて競い合うことがないように

ある若い女性は、バスケットボールが上達するよう何年も一生懸命努力しました。またその親切な行いのために、みんなから愛されていました。ところが高校1年生で州の代表選手に選ばれてから、おかしなことが起こりました。高校のチームメイトがボールをパスしなくなったのです。

なぜでしょうか。競争相手だと思っている人を仲間に入れるのは難しいからかもしれません。数少ないものを手に入れるために競い合うことは、すべての人を受け入れることを困難にします。そして事実、人の一生は競争であると



とも言えます。自分の望んでいた栄誉を別の人に取られてしまったとき、その人のために喜ぶことは容易ではありません。

一方、自分より能力の劣っている、あるいは成功していないと思える人は除外したくなります。しかし、神の愛、またわたしたちの愛の輪から除外される人はだれもいないのです。

天の御父はこの人生を、神の子らが勝者と敗者となる大きな競争だとは考えておられません。わたしたちもそう考えるはずではないのです。むしろ、天の御父は意図的に異なった賜物や才能を人に与え、互いのために活用して益を得られるようにしたと教えておられます（教義と聖約46：11-26参照）。

主の愛を確かに感じる時、周りの人を競争相手としてではなく兄弟姉妹と見ることができるようになります。人の成功をじゃましたり、自分たちの基準に達しない人を見



真の友

「救い主は十字架にかかる直前、弟子たちに向かってこう語られました。『人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。……あなたがたはわたしの友である。』（ヨハネ15：13-14) わたしはこれまでキリストの友情により豊かに祝福されてきました。キリストがわたしたちにとってかけがえのない存在、すなわち真の友であられるように、わたしたちも人々に対して、そのような存在となれるようお祈りします。わたしたちは友となるときに、最もキリストに近くなれるのです。……献身的に友情を示すとき、わたしたちは神の御業、そして神の子供たちの幸福と進歩のために最も意義ある貢献をしているのです。」

七十人 マーリン・K・ジェンセン「友情——福音の原則」『リアホナ』1999年7月号, 76

下したりすることがなくなるのです。

リーダーシップを執る

友情の輪には変化を嫌う傾向があります。親しい友情の輪の中は居心地よく、安心できます。グループや一人一人が何を考え何をすることが大体予想できることは都合のいいことです。ですから輪の中に別の人を入れることで、事情が大きく変わってくるのです。

新しい人を受け入れるに当たって、グループの嫌悪感を克服するためにリーダーが必要なのはこのためです。このようなリーダーシップには、監督からの召しは必要ではありません。それはわたしたちすべてが主から直接与えられている召しです。「各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊びなさい。」(教義と聖約38：25，強調付加)

この聖句には、ほかの人を輪の中に入れる際の鍵^{かぎ}もあります。教会や学校でどのように接してもらいたいと考えて、それと同じようにほかの人に接してください。神権定員会で席に一人で座っていたいのですか。それが嫌なら、率先して新しい執事の隣に座り、歓迎していることが伝わるまで続けましょう。スポーツをするグループに入りたいと思うなら、新しい人を自分のグループに招き入れるようにしましょう。

わたしたちにできること

一人の人が率先して周りの人々を受け入れることでどれほど大きな影響を与えるかを、ある勇敢な少女から知りました。新しい学校の3年生に転入して2週間目、この少女は、休み時間に同じぐらいの年の女の子が泣いているのを見かけました。留年しなければならないため、去年の同級生からいじめられていたのです。

この少女は、すぐにそのからかわれていた子のそばへ行きました。まだ友達がいませんでしたが、この少女はいじめっ子に勇気をもって向かって行きました。真心をもって親切に、「心配しないで。わたしも1年間休学したから、両親から同じ学年をもう一度するように言われているの」と泣いている子を慰めま

した。この二人が生涯の友となったのは、言うまでもありません。

輪は悲しいものにも、素晴らしいものにもなります。どちらの役割を果たすかは、わたしたちが決めることです。■

ジャン・ピンボローはソルトレーク・東ミルククリークステーキ、東ミルククリーク第4ワードの会員です。

注

1. 「友情の輪」『心の歌』(英文)〔1978年〕, 30

教会や学校で
どのように
接してもらい
たいか考えて、
それと同じよう
にほかの人に接し
てください。
主は次のように
おっしゃいました。
「各人がそれぞれ
自分の兄弟を
自分自身のように
尊びなさい。」



あなたの家族歴史

始めること



十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

何年も前のこと、妻とわたしは家族の歴史記録を整理することに決めました。しかし、世界中を旅して回るという教会の責任に追われていましたし、たくさんの子供を抱え家の内外の手入れもしなければならず、実際のところ十分な時間がありませんでした。それでも、家族歴史の責任が頭から離れませんでしたので、最終的には何とかして時間を捻出しなければならぬという結論に達しました。

クリスマス休暇中に少し空き時間ができたので、作業を始めることにしました。それから休暇も終わり通常のスケジュールに戻りましたが、毎朝1、2時間早く起きる習慣を取り入れることにしました。

自分たちの持っている資料をすべて集めました。数週間のうちに達成したことを見て驚嘆しました。何よりも印象的だったのは、導きを受けているということを見せてくれる経験を数多くするようになったという事実、わたしたちがしていることに関心を持っている人々が幕の向こう側にいるという事実です。すべてのことが都合よく運び始めました。

あちこちの教会を訪問して回り、このテーマに特別な注意を払うようになってからというもの、数多くの証あかしが生まれました。家族の

記録を集める人は同じような経験をしています。まるで始めるのを主が待っておられたかのようなのです。

長い間求めていた情報が見つかったこともあります。ほとんど何の困難もなく手に入るように思われました。それよりも素晴らしいことは、この世に存在しないとばかり思っていた資料が目の前に現れ始めたことです。わたしたちは個人的な経験を通してこの家族の探求が靈感によって与えられた業であることを理解し始めました。また、この業に取り組む人には靈感が伴うということが分かるようになりました。問題はただ始めるかどうかということなのです。

いったん始めてしまうと、時間は見つかりました。またほかの数々の責任もすべて何とか果たすことができました。この業のおかげで、生活の中で受ける靈感も増えたようです。

始めると道は開かれる

しかし、この業に関する決意や行動は、個人から始めなければなりません。主がわたしたちの選択の自由に干渉されることはありません。家族歴史や神殿の業について証が欲しければ、何らかの行動が必要なのです。では、その後何が起こるかを、例を挙げてお話ししましょう。

かつてコネティカット州ハートフォードステークのステーキ大会に出席したときのこと

**何から始めたら
よいのか分からない
ならば、何よりもまず
自分自身から始める
ことです。
どのような記録を
どのような方法で
手に入ればよいか
分からなければ、
自分の手もとにある
記録から
始めるのです。**

です。大会の3か月前に、ステーク会長会の全員がこのテーマ、すなわち家族歴史活動について話す割り当てを受けました。そして、ステーク副会長で、その大会でステーク祝福師に召された兄弟が次のような興味深い出来事を話してくれました。

この兄弟は、家族歴史について「改宗」はしていたのですが、取りかかることができないでいました。何から始めたらよいか分からなかったのです。自分の記録の中から自分の生涯について話を準備するよう依頼された

この兄弟は、幼児期から青年期にかけての資料を何一つ見つけ出すことができませんでした。あるのは出生証明書だけでした。彼はイタリア移民の家族のもとに生まれた11人の子供の一人です。家族で教会員は自分一人だけでした。

話の責任を果たすために、彼は自分の生涯についての資料をすべて集めようと思いました。少なくとも、始めようとしたのです。ただ、八方ふさがりのように思われました。できるのは、自分自身の記憶をたどり、手もとにあるほんのわずかな記録をつなぎ合わせて、自己の生涯の物語をまとめ上げることだけでした。

そんなときに、とても不思議なことが起こりました。療養施設にいた年老いた母親がイタリアの故郷にもう一度帰りたいとしきりに願うのです。その望みがあまりにも強かったので、医師たちは母親の願いを拒否しても何もいいことはないだろうと判断しました。そして子供たちは母親のこの最後の願いを聞き届けることにしたのです。さらにどうしたわけか、きょうだい全員の決定で母親のイタリア行きには（家族で唯一教会に所属している）この兄弟が同行すべきだということになりました。

こうして突然、先祖の国へ帰ることになりました。すばらしい機会が向こうからやって来たのです！ イタリア滞在中に、母親が洗礼を受けた教区教会と父親が洗礼を受けた教区教会を訪れました。多くの親戚に会いました。教区の記録は500年前にさかのぼるものだということが分かりました。記録を調べようと市庁舎へ足を運ぶと、皆とても協力的でした。市の職員から、その前の年の夏にある聖職者と修道女が二人で市庁舎にやって来て、この兄弟と同じ姓の記録を探していたと

今 できるところから、つまり各自が自分自身から、持っている記録から取りかかり、整理を始めるならば、起こるべきことが起こるのです。



男性はイタリアに
ある先祖の
実家を訪れ、
そこで多くの親戚に
会いました。
また母が洗礼を受けた
教区教会と
父が洗礼を受けた教区
教会も見つけました。
さらに、彼の家族の
記録は500年も
さかのぼることが
できると分かりました。

いうことを聞きました。その二人も家族の歴史を集めていると言っていたというのです。二人の住んでいる町の名前を教えてくださいました。糸口が見つかったのです。さらにはイタリアに自分の姓と同じ名の町があることも分かってきました。

しかし、祝福はそれだけにとどまりませんでした。ソルトレーク・シティーで総大会に出席した彼は、帰途、親族の多くが住んでいるコロラドに立ち寄りました。そこで、無理に願ったわけでもないのに、親族の組織ができ、親族の集まりが計画され、すぐに開催されたのです。

そしてその集まりのときに、よくあることですが、おば、おじ、兄弟、姉妹といった親

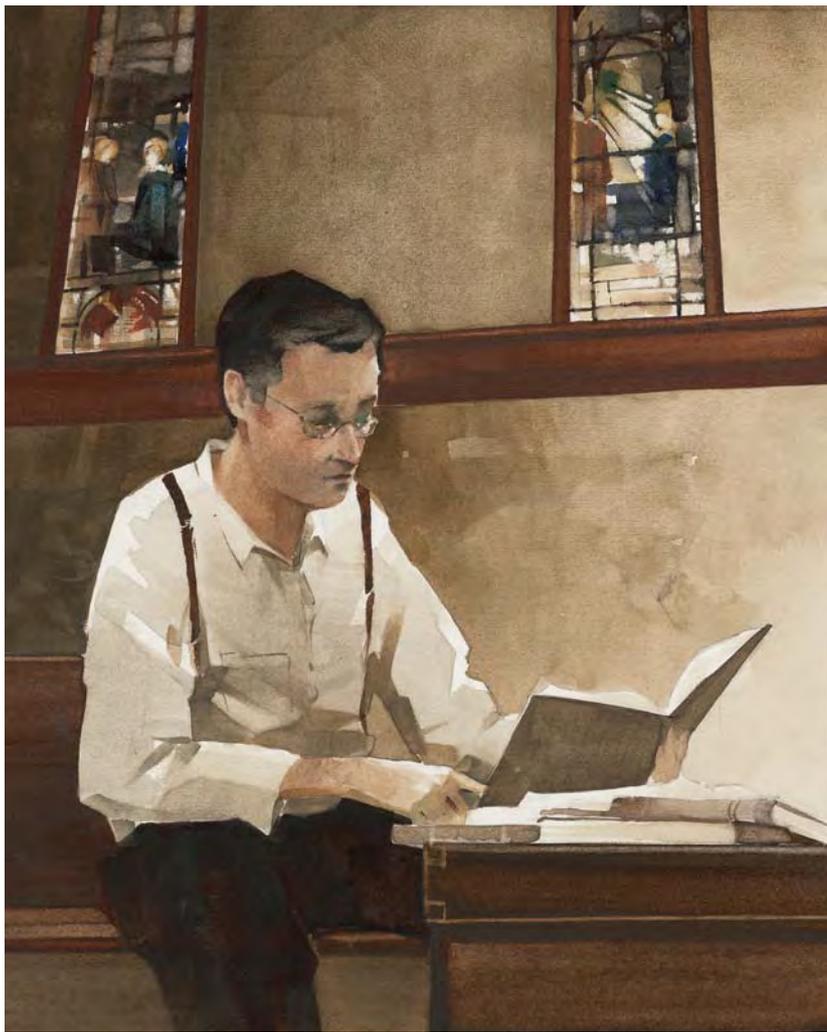
族の中から、彼自身の生涯についての写真や情報を提供してくれる人々が出てきたのです。そのようなものがあるとは夢にも思いませんでした。また、これもよくあることですが、家族歴史は靈感によって与えられた業であると理解できるようになったのです。

家族歴史の業を始めれば主はすぐに祝福を与えてくださいます。わたしの家族の場合もまさにそのとおりでした。まず自分たちのできるところから、持っているものから始めようとしたのですが、そのとき以来、多くの事柄が明らかにされてきました。

あるとき、系図協会に8冊の分厚い手書きの家族歴史資料を携えて行きました。すべてパッカー家に関するもので、6,000枚に上る家族の記録に記されたきわめて専門的な家族歴史でした。そのすべてを集めたのはワレン・パッカーというオハイオ生まれの学校教師で、ルーテル派の信徒でした。彼は30年を費やしてこの業を行いました。その理由はほんとうのところよく理解していませんでした。今、その8冊にあと2冊を加えようとしています。この男性は今になってなぜ自分が何年もかけてこの業に携わってきたのか気づいています。そして非常に力強い家族歴史探求の御霊みたまを持っています。

わたしたちはイギリスにあるパッカー家の先祖の家を探し当て、訪問する機会もありました。最近になってイギリスでは領主の邸宅を数多く一般に公開していますが、この家は公開されていません。イギリスのロンドン神殿から車で15分ほど行った所にあり、古代の城跡に建てられ、周囲を堀で囲まれています。1600年代初期に建てられたままの状態です。先祖の肖像画が300年近く前につけられたその同じ場所に今も飾られています。敷地内には小さな教会堂があります。その中には1625年にはめ込まれたままの、パッカー家の紋章の入ったステンドグラスの窓があります。

いったん行動し始めると、情報が集まって来るようになりました。わたしたちは今でも決して家族歴史探究の専門家ではありません





ん。ただ、家族のためにできることをしているだけです。そしてこれはわたしの証ですが、今できるところから、つまり各自が自分自身から、持っている記録から取りかかり、整理を始めるならば、起こるべきことが起こるのです。

どのように始めるか

大切なのはとにかく始めるということです。ニーファイの理解していた原則を皆さんも理解するようになることでしょう。「わたしは、前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊に導かれて行った。」(1ニーファイ4:6)

何から始めたらいのかわからないならば、何よりもまず自分自身から始めることです。どのような記録をどのような方法で手に入ればよいか分かなければ、自分の手もとにある記録から始めるのです。

始めるタイミングを待っている人にきわめて分かりやすいアドバイスが二つあります。次のような方法はいかがでしょうか。

ダンボール箱を一つ準備します。どんな箱でもかまいません。その箱をどこでもよいですから、必ず目に付く所、例えばソファの上、あるいは台所のカウンターの上といった所に置

きます。それから、数週間かけて、自分の人生に関するすべての記録、例えば出生証明書、祝福証明書、バプテスマ証明書、聖任証明書、卒業証明書などの記録を集めその箱に入れます。免状、すべての写真、表彰状、賞状、日記をつけてきたならばそれも入れます。自分の人生に関して見つけ出せる記録全部、あなたが生きていることを証明し、これまでに成し遂げてきたことを証明する書面、登録、記録を全部集めます。

すべてを1日でやっつけてしまおうとしないでください。ある程度の時間をかけてください。このような記録はあちこちに散在しているのが普通です。ガレージでうず高く積まれた新聞紙の下に隠れている箱の中から記録が出て来る場合もあります。引き出しや屋根裏部屋といったような場所にしまい込んでいる記録もあります。また聖書の中やそのほかの場所に挟まったままの記録があるかもしれません。

このような記録をすべて集め、箱に入れます。持っていそうな記録を全部集めてしまうまで、箱は置いたままにしておきます。それからテーブルに——床の上でもいいでしょう——少しスペースを空けて、集めたものを3つの時代に分けて分類していきます。これは教会のやり方と

白分の家族歴史
ひとたび
活動に一度
興味を示せば、
非常に興味深い出来事
が起り始めるのです。
それは不変の原則です。



**ダンボール箱を
見つけ、目に
付く場所に置き、
資料を入れてください。
いろいろな事実が
明らかになっていく中で、
霊的なことが
起こることに気づきます。
そして、それが
それほど不思議ではなく
当然のことのように
思えるのです。**

同じです。大まかに言えば、教会のプログラムはすべて3つのグループに分けられます。子供、若人、成人です。

子供時代の分から始めましょう。出生証明書から始めるのです。12歳までの写真や、バプテスマの記録など、子供時代のすべての記録を年代順に並べます。

次に12歳から18歳まで、あるいは結婚するまでの青年時代に関する記録をすべて集めます。そのような記録のすべてを年代順に整理します。証明書、写真などの記録を年代順に並べ、別の箱か封筒に入れます。人生の残りの部分に関する記録についても同じ作業を行います。

ここまで終われば、自分史を完成するために必要な資料がそろったことになります。まず出生証明書を取り出して次のように書きましょう。「わたしは1924年9月10日にユタ州ブリガムシティで、アイラ・W・パッカーとエマ・ジェンセン・パッカーの息子として生まれました。10番目の子供で、五男である。」

実際、自分の生涯に関する記録を書いたり、テープレコーダーに録音したりするのに大した時間はかかりません。なおかつ自分で資料を

集めたわけですから、正確な記録が出来上がることになります。

それから何をすればよいでしょうか。自分の生涯についてさかのぼりその概略を作成した後に、集めた資料のすべてをどう処理すればよいでしょうか。

それはもちろん「覚えの書」に取り組むきっかけとなります。資料は、時折必要などときにはがすことができるよう軽くはっておきましょう。これで、自分の「覚えの書」が完成します。

いったんこのプロジェクトを始めると、とても不思議で御霊にあふれる出来事が起こります。この業に少しでも携わる人は、この業に伴う御霊から何らかの力を受けることでしょう。また、このプロジェクトについてだれかに話さなくてはいられなくなるはずです。少なくとも身近な家族の中では、このことが必ずや話題に上ることでしょう。自分の家族歴史活動に一度興味を示せば、非常に興味深い出来事が起こり始めるのです。それは不変の原則です。このことについては、ほんとうに多くの証があります。皆さんも同じ経験することでしょう。

例えばおばさんから、「あなたがひいおじいさんと一緒に写っている写真を持っているわ

よ」と言われるかもしれません。そんなことはありません、ひいおじいさんは自分が生まれる前の年に亡くなっているのだから、とっていると、おばさんが写真を出して見せてくれるのです。そこには確かに生まれて間もない自分を抱えているひいおじいさんが写っています。記録を調べていくうちに、ひいおじいさんが亡くなったのは自分が生まれた後だったということが判明します。このようにして、家族の歴史に関する大切な詳しい情報が分かるのです。

このような正確な情報には意味があります。写真の裏に記されたミドルネームにも意味があります。今の段階ではそれが何なのか分からないかもしれませんが、それは大切な情報なのです。それは、先祖の中のある人々にとって神殿の儀式の始まりとなるのです。

皆さんは復活を信じていることでしょう。亡くなった人のバプテスマが活着している人のバプテスマと同様に不可欠であることを知っているはずで、どちらもその大切さにおいてまったく変わらないのです。一人一人がバプテスマを受けなければなりません。活着しているうちに地上でバプテスマを受けなければなりません。さもなければ、亡くなった人のために、だれかが代わりに地上で受けなければなりません。

新約聖書全体で中心的なテーマとなっているのは主の復活です。それは、あらゆる人が復活するというメッセージです。伝道活動に当てはまる聖文や熱意は、全部そのまま死者のための儀式にもふさわしいものとなります。

さて今や、皆さんは自分自身の家族の歴史を書き、覚えの書を整理しました。簡単すぎると思うかもしれませんが、まあ、確かにそうかもしれません。しかし、簡単であるがゆえに、必ず始めなければならないのです。ニーファイのように、皆さんも「前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊に導かれて行く」のです(1ニーファイ4:6)。

ですから、ダンボール箱を見つけ、目に付く場所に置き、資料を入れてください。いろいろな事実が明らかになっていく中で、霊的なことが起こることに気づきます。そして、それがそれほど不思議ではなく当然のことのように思えるのです。

心が向き始める

家族歴史活動は死者のためになるある力を秘めています。また同様に、活着している者のためになる力も秘めています。教員が家族歴史活動を行うとき、携わる人々は洗練され、霊的に高められ、慰められるのです。この業に携わる教員

は、自分たちが家族を一つに結び合わせようとしていること、この世の家族とすでに世を去った家族を結び合わせようとしていることが分かります。

家族歴史活動は、たとえ名前を儀式のために神殿に提出することが許されなくても、ある意味でその活動自体に意義があります。探究する過程においても、名前を調査するために必要な経費においても、全力を尽くすだけの価値があるのです。なぜでしょう。名前というものは、それが人を表すものであるということを知らずして、見つかるものではないからです。家族歴史活動を行うと、その人についての情報が集まって来ます。自分の先祖について情報を収集し始めると、単なる名前や神殿の儀式を受けた名前の数だけでなく、それを越えたものに興味を持つようになります。そのような興味を持つと、わたしたちの心は先祖に向いてくるのです。先祖を見だし、先祖を知り、先祖に奉仕することを求めるようになるのです。

そうすることによって、わたしたちは宝を天に蓄えていくのです。■

この記事はバッカー長老著『聖なる神殿』(The Holy Temple) [英文]から抜粋したものです。

家族歴史の基本

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バッカー

家族歴史活動と神殿活動には基本的な要素がいくつかあります。長年の間には、強調点が若干変わったり、教会のアプローチの仕方が若干変わったりするかもしれません。しかし、その責任の内容はいつもほとんど変わりません。

1. 各自が自分史をまとめる。
2. 各自が覚えの書を作る。
3. 個人または家族で、亡くなった親族の記録を探究する。まず父方も母方も直系4代の系図を探求する。次にできるかぎり昔にさかのぼって探す。
4. 依頼されたときには、人名抄出プログラムなどのプログラムに参加する。
5. 親族と連絡を保ち、親族の集まりを開く。
6. 神殿が近ければ、できるかぎり頻繁に神殿に参入し、儀式を行う。まず自分自身から始めて、自分の先祖、さらにはほかの人々が集めたすべての名前のために儀式を行う。



髪の影の

写真：タレント・ダイヤモンド、一部は語の原書により掲載

毛なんて



ジュリー・ハウスホルダー

奇妙な病気のために、
髪が抜け落ちてしまいました。
どのようにこの試練に
立ち向かえばいいのでしょうか。

高校2年生のときには、肩まで伸ばした濃いブロンドの髪が自慢でした。朝には30分ほどかけて、納得がいくまでいろいろと髪型を試してみるのです。毎朝そうでした。ところがある日を境に、この日課が二度とできなくなったのです。

その日は、いつもと同じように始まりました。起きて顔を洗い、コンタクトレンズを着け、眠い目で鏡をのぞくと、何かとんでもないものが入りました。頭のとっぺんに、髪が抜け落ちた小さな跡があるのです。寝ぼけて見間違えたのではないかと、鏡に顔を近づけ、指で頭を触って確かめてみましたが、見間違いで

はありませんでした。

どうしていいか分からなくなって、泣きながら母を捜しました。寝ている間に髪に何か絡まって抜けてしまったのだろうか、母と話しました。あまり野菜を食べていなかったせいかもしれません。はっきりとした原因が分からないまま、髪型を工夫して何とか隠し、学校に急ぎました。

その日から、一束ずつ髪が抜け落ちていきました。抜けた跡の大きさは硬貨程度のものからこぶし大のものまで、様々でした。数え切れないくらいたくさんの医師のもとを訪れ、頭の隅々まで調べてもらいました。また、度々ひざまずいて祈り、慰めと、医師の診断を受け入れる強さを願い求めました。

2000年9月には円形脱毛症という、自己免疫疾患であることが分かりました。説明してくれた医師の声を、今でもはっきりと思い出すことができます。この病気になると「髪が残らず抜

ジュリーは健康
に感謝し、
慰めと強さを
主に求めました。



た。けれど友達が好奇の目をちらりと向けると、天の御父のことを思い出すのは困難でした。また、うわさが広まり、みんながわたしのことをいろいろと話していることも知っていましたが、それもつらいことでした。よりによって人生のこの時期、周りのみんなから愛され、受け入れられることを最も必要とする高校生の時期に、なぜこのような試練が与えられたのかを、理解することができませんでした。

高校3年生を無事に終えることができたのは、学校の廊下を歩くときにいつも思い出す

ように努めていた事柄のおかげです。毎朝祈りの中で、生きていること、そして自分の周りにたくさんの美しいものが与えられていることに対し、主に感謝をささげました。その日一日を耐える強さを求めて祈り、たくさんの人がわたしを愛してくれていることを、思い出せるように願いました。また、この経験を通して学べるこ

け落ちるが、治療法はない」というのです。信じられない気持ちと、「これから一体どうなるのか」という不安、そして、「なぜ自分がこんな目に遭うのだろう」という思いで、胸が張り裂けそうでした。

翌月になって専門医のところへ行ったら、ほとんど残っていなかった髪をすっかりそり落としました。髪がなくなったわたしはまったく別人のようでした。自尊心を失ってしまい、学校へ行くのはとても無理だと思いました。「みんなは一体どう思うかしら。それに何と云うかしら」と思い悩みました。

頭にスカーフを巻くのが、新しい日課になりました。毎朝髪型に30分を費やす代わりに、髪がなくなった頭に注意深くスカーフを巻く作業は、わずか5分で済みました。スカーフはどれもカラフルだし、着け心地も快適でしたが、髪への代わりというわけではありません。一度元の髪と同じ色のかつらをかぶってみました。学校みんながいる前で落としたらどうしようかと、ずっとはらはらし通してでした。そこで結局スカーフに落ち着いたのです。

学校へ行くことはチャレンジでしたが、天の御父がわたしを愛していらっしゃることを知っていました。そしてたとえ周りのみんながわたしを避けても、天の御父がそばにいてくださることを理解していまし



とを、天の御父に感謝していました。簡単なことのようにですが、それは大きな変化をもたらしました。だれかに変な目で見られたり、ひどい冗談を言われたりしたときには、「髪の毛のことなんて、大した問題じゃない」という、自分のモツ

髪を失う前には、
ジュリーは
いろいろな
髪型を楽しんで
いましたが、ある日、
髪が束のように
抜け落ちました。
ジュリーを
応援するために、
兄弟たちも
頭をそりました
(隣のページ)。



トーを思い出すのでした。

髪が抜け落ちるのは、自分ではどうしようもありません。でも、その事実への対処の仕方は完璧にコントロールできるのです。そのことを理解できるようになりました。この現実を、祝福と成長の機会としてとらえることもできましたし、逆に、つらい罰だと受け止め、あきらめてしまうこともできました。

頭に小さな丸い跡を見つけたあの朝から3年が過ぎました。ところどころに少し髪が生えてくるので、その間5回頭をそりました。髪をそる度に、人生に対する喜びと感謝が少しずつ増していくように感じました。

自分独りではこの試練に立ち向かうことはできなかったでしょう。主が、わたしにとって最も信頼の置ける存在となってくださいました。主はわたしを裁くことも、笑い者にすることもなさいません。主は髪の毛があったころと同じように、髪の毛のない

わたしを愛してくださいます。また、わたしは家族の愛と助けに頼ってきました。

わたしたちは皆、神聖な可能性を秘めた、神の子供だということを知っています。様々なチャレンジを通して様々な方法で学び、成長するために地上に生を受けたのです。天の御父は、ありのままのわたしたちを愛し、そしてまた可能性を秘めたわたしたちを愛してくださいます。つらい試練のときにはともにいてくださるのです。救い主であるイエス・キリストの贖いの犠牲に感謝します。

また、贖いによってもたらされる慰めに感謝しています。主は生きておられ、わたしがこれまで感じた苦痛、そして将来経験するであろうあらゆる苦痛をはるかに超えた、肉体的・霊的な苦痛を味わい、それに耐えられたことを知っています。■

ジュリー・ハウスホルダーは、ユタ州フルーツハイツステーク、フルーツハイツ第7ワードの会員です。



ジュリーは
今も円形
脱毛症を患っ
ています(写真下)。
新しく生えた髪が
しばらくすると
抜け落ちる状態が
続いており、
心の痛みに耐えなけ
ればなりません。
病気への心構えを
学ぶ中で、
主に対する信頼が
培われました。



質疑応答

教会では、して良いことと悪いことを
具体的に挙げたリストを作らないのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、
教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

実は、主はすべきこととすべきでないこと
のリストを与えてくださっています。それは十戒と呼ばれています。また主は、バプテスマの聖約や神殿での聖約など、
ほかにも指針を与えてくださっています。わたしたちを害悪から守り、主のようになるのを助けるためです。教会の指導者も、すべきことと
すべきでないことに関する特別な勧告を与えています。さらに『若人の強さのために——神への務めを果たす』(36550 300)という小冊子も
用意されています。この小冊子は、服装や身だしなみ、安息日を守るなど、様々なテーマに関して具体的な指針を与えてくれるものです。これら
の指針は、末日の混乱した世の中を無事に進めるように助けてくれます。

しかし時々、聖文や生ける預言者の言葉は、わたしたちが直面する特定の状況に対処するものではないことがあります。また、善か悪かの
選択ではなく、善と善との間で選択しなければならない場合はどうでしょう。どのように決断するのでしょうか。

預言者の言葉や聖文、
『若人の強さのために』など、
主の導きを求めて頼れる
ものがいくつかあります。

すべての状況に対応する
リストを作るには、
人生はあまりにも複雑です。

人生の目的の一つは、
選択の自由を使えるように
なることです。
ロボットのように
細かい指示に従うことでは
ありません。

聖霊は、決断しなければ
ならないときに、
導いてくださいます。
聖霊の賜物^{たまもの}はどんなリスト
よりも優れています。

霊的に成長し、聖霊に従う
ことを学ぶにつれて、
容易に義にかかった決断が
できるようになります。

読者からの提案



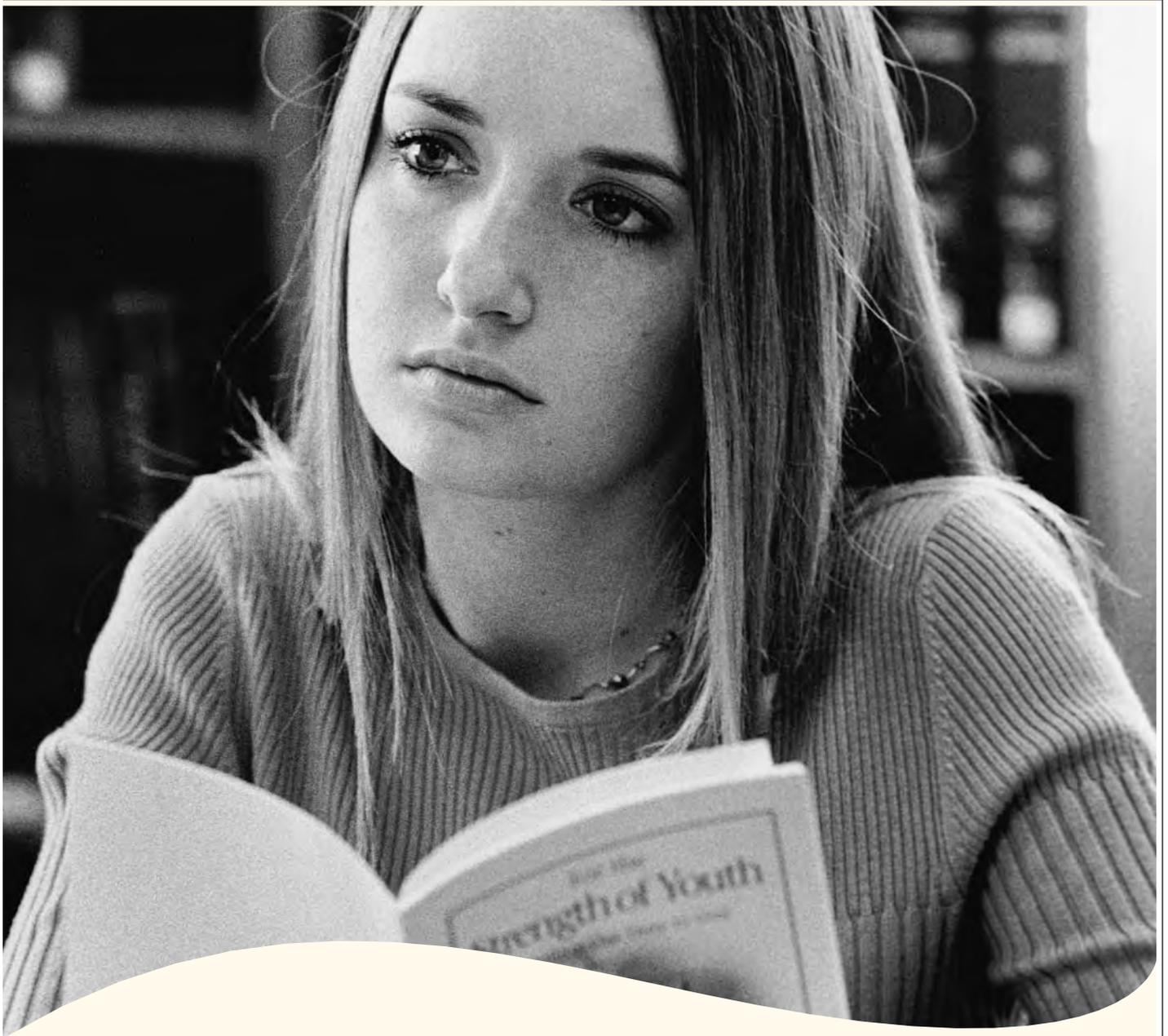
救いの計画のいいところは、自分の
力で何が正しいかを確認される
ことです。『若人の強さのために』と
いうだけでも入手できるすばらしい
指針もあります。

カリフォルニア州エルドラドステーク、エルドラドワ
ード、ブライアン・ミドルトン、17歳



教会は、すべきこととすべきでない
ことのリストを出してくれません。
なぜならわたしたちは聖霊を授か
っており、聖霊が善悪を教え、示し
てくださるからです。わたしたち
には聖霊に従うかどうかを選ぶ自由があります。
次に、天の御父は戒めや聖文、教会の指導者の言
葉を与えてくださっています。最後に、両親が正
しいことや幸せを運んでくれるものを教えてく
れます。

トンガ・ヌクアロファ南ステーク、ベイトンゴワード、
スイニ・ファラタウ、20歳



わたしの伝道部長は、教義が原則へと導き、原則が規則へと導くという考えを説明してくれました。教義を学び、教義から生じる正しい原則を理解するならば、聖霊を通じて、もっと細かい規則を理解することでしょう。祈りと聖文の学習を通じて常に聖霊の導きを求めるならば、何が正しく何が間違っているか、はっきりと分かります。

日本、札幌伝道部、伊藤雄大長老、22歳



主と主の教会は、十戒（出エジプト20章参照）や二つの偉大な戒め（マタイ22:36-40参照）を通じて、すべきこととすべきでないことについての知識をすでに与えてくださっています。わたしたちが行う必要があるのは、神の戒めを守ることだけです。

ガーナ・ケープコーストステーク、ケープコースト第2ワード、ケート・メンシャー、22歳



もしリストがあるとすれば、とても長いリストになるでしょうし、完成することはないでしょう。すべきこととすべきでないことはあまりにも多すぎるからです。また、天の御父はわたしたちが学ぶことを望んでいらっしゃると思います。すべての問題に対する直接の答えがあるのではなく、自分で探し求めるのです。言い換えれば、知識を求め、学ぶのです。

ミネソタ州ロチェスターステーク、プレストン支部、カトリーナ・フォークト、14歳

回答

多くの読者が指摘しているように、人生は複雑すぎて、すべての状況に対応するような範囲の広い行動リストを教会が出すことはできません。しかも主は、ある目的をもって人に選択の自由をお与えになりました。わたしたちは、コンピューターやロボットのように細かい指示に従えることを証明するためにだけこの地球にいるわけではありません。主はわたしたちが御自分のようになることを望んでおられます。つまり、わたしたちは賢い決断をすることを学ばなければなりません。真理を理解し、真理に基づいて行動することを学ぶ必要があります。

主の教会の会員として、わたしたちは難しい決断ができるようにすばらしい賜物^{たまもの}を与えられています。それは聖霊の賜物です。主は次のようにおっしゃっています。「わたしはあなたにわたしの御霊^{みたま}を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。」(教義と聖約11:13) 何をすべきかを列挙してもらう必要はありません。必要なのは、わたしたちが聖霊のささやきに耳を傾けることです。

わたしたちはそれぞれ、善と悪を賢く選択し、またどちらも同じように良いと思われる二つの道のごく小さな違いを理解できるようになるまで、聖霊に従う力を伸ばすことができます。主は次のように教えておられます。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:24) わたしたちは神の子供です。しかし神は、わたしたちがいつまでも霊的に子供でいることを望んでおられません。成長し、進歩し、最終的に神のようになることを望んでおられるのです(3ニーファイ27:27参照)。



正しかれ

「皆」さんは霊的な訓練を受けて成長しています。つまり御霊の促しを見分ける能力と、それに従う能力を伸ばしているのです。この能力は次第に高められ、強くなって、やがて正しいことを行うのが日増しに易しくなり、無意識にできるようになります。霊的な訓練を受けている今、十分注意して、幸福の道からそれてしまうような選択を避けなければなりません。」

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット
「正しかれ」
『リアホナ』2001年3月号、
10参照

読者からの提案



聖文にはこのようにあります。「キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」

(2ニーファイ32:3) 熱心に勉強して、聖霊にふさわしくあってください。そうすれば、どうしたらよいか分かるでしょう。

ウクライナ・ドネーツク地方部、ドネーツクキエフスキー支部、アンナ・ビタリエフナ・スルスヤコバ、20歳



預言者ジョセフ・スミスはかつてこのように言いました。「わたしは人々に正しい原則を教え、人々に自らを治めさせます。」(『御存じでしたか?』『リアホナ』2002年10月

号、47) 教会では真実の原則を学びます。自分自身を治めるのは、個人の責任です。多くの場合、すべきことを教わる必要はありません。聖霊が導いてくださいます。聖霊のささやきによく従うならば、祝福につながるでしょう。

フィリピン・カガヤン・デ・オロ西ステーク、イニタワード、マーネイロ・M・ダーラ、19歳

あなたの意見を聞かせてください。

下記の質問に対する答えを、氏名、年齢、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を同封して、2003年9月1日までに Questions and Answers 09/03, Liahona, Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA に郵送するか、cur-liahona-imag@ldschurch.org へてに電子メールで送ってください。

質問

わたしは若い女性で、バプテスマを受けたいと言っている友人がいます。でも、彼は福音よりわたしともしっかりとした親密な関係を持つことに興味を持っているようです。教会に入ってほしいと思いますが、間違った目的のために入ってほしくありません。どうしたらよいでしょうか。

試練を通して強められるよう 備える

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

ヒラマン5:12——「あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならない……。そうすれば、悪魔が大風を……送るときにも、……それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。」

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン——「天の御父は、わたしたちが恐れたり、いつまでも悲しみに暮れたりするのを望んではおられません。胸を張り、腕をまくり、試練を克服することを期待しておられます。」

人生において安全な港にたどり着くことを願うなら、わたしたちは信仰と熱心な働きを兼ね備えた霊を養うよう努めていかなければなりません。……

試練を克服するため、自らの創意、勢力、力を用いてください。できることはすべて行い、それ以上は主にゆだねてください。」「(「安全な港を見いだす」『リアホナ』2000年7月号, 73)

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット——「主への信頼は、個人の感情や経験から来る自信よりもさらに強く永続するものでなければなりません。」

信仰を行使するとは、主が皆さんに行っていることの意義をよく御存じであるということに対して、また皆さんの永遠の

利益のためにそれを成し遂げてくださることに対して信頼を置くことです。たとえ、主が一体どのようにして行うことができになるのか理解できなくても、信頼を置くことなのです。永遠の事柄ならびにこの世でのその影響力に関するわたしたちの理解は赤ん坊のようです。それでもわたしたちは時々、1から10まで知っているかのように行動することがあります。主の目的のために試練を経験しなければならないときは、主に信頼を置き、主への信仰を行使してください。主はきっと皆さんを助けてくださいます。主からの助けは一般的に、段階を踏んで一つ一つやって来ます。その各段階を通る間、成長に伴う苦痛や困難は続きます。すべてが一度の祈りで解決されれば、皆さんは成長できないのです。」「(「主を信頼する」『聖徒の道』1996年1月号, 18参照)

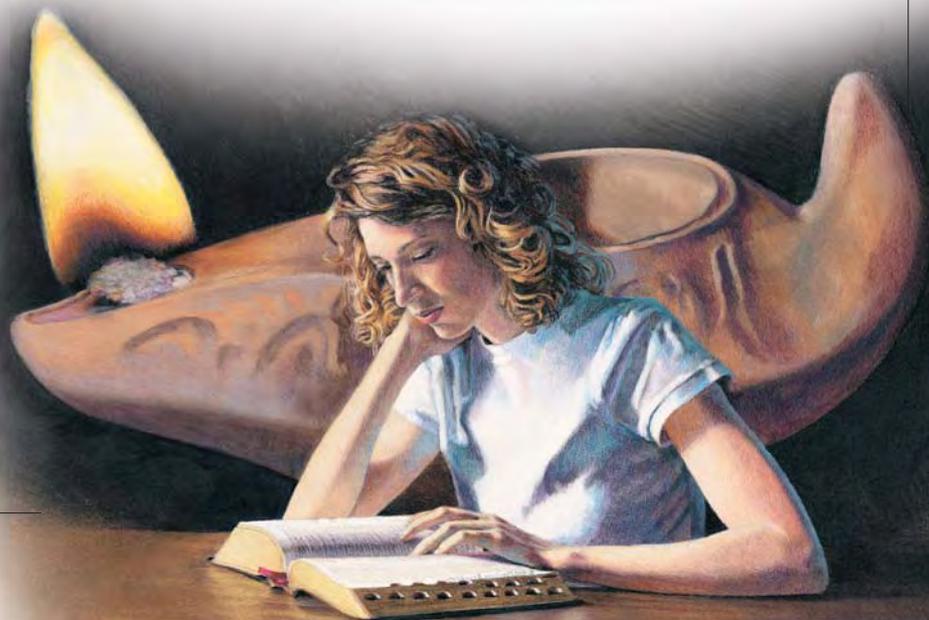
教義と聖約58:2——「わたしの戒めを守る者は幸いである。艱難の中で忠実な者の受ける報いは、……大きい。」

元中央扶助協会会長 バーバラ・W・ウィンダー——「近代の預言者は、10人のおとめのたとえを生活に当てはめ、その油が日々の義にかなった生活を通して一滴ずつ蓄えられると説明しています。」

聖餐会に絶えず出席することによって、少しずつランプに油が蓄えられています。断食、個人の祈りや家族の祈り、家庭訪問、肉体的な欲求の制御、福音の原則を教えること、助けを必要としている人々の世話、互いに対する思いやり、聖文の勉強、……などについても同じことが言えます。……戒めを守り、預言者の言葉に従うことが、将来に対する最大の備えと言えるかもしれません。」「(「備えられた者となる」『聖徒の道』1989年2月号, 92-93参照)

● どうしたら主に対する信仰を増し加えることができるでしょうか。信仰は苦難の中にいるわたしたちをどのように支えてくれますか。

● 愛に満ちた天の御父への信頼は、どのような行動に表れるでしょうか。



全部



両親が喜んで
宣教師を家に
招いたのは、
ただ会話を楽しむため
だけだったのです。
しかし、それがわたしたち
家族にとっての
奇跡の始まりでした。

話しなさい

ドン・カルロス・ビダル

1993年の4月、レアリコというアルゼンチンの小さな町で、父が食料品を買っていたときのことで。二人の若い男性が父に近づき、家を訪問してもいいかと聞きました。父は承諾し、それから間もなく二人はわたしたちの家にやって来ました。

弟のセバスチャンがわたしの寝室に駆け込み、興奮した様子でささやいた声はまだ耳に残っています。「来てごらんよ。あの宣教師たちがいるよ。」弟とわたしは以前、通りで宣教師に会ったことがありました。白状しますが、そのときわたしたちは彼らをからかってしまったのです。

その日二人は、両親にモルモン書について話しました。2日後に家に立ち寄った宣教師たちは、母がモルモン書を全部読み終えて質問のリストを用意していたので、とても驚き、大喜びしました。けれども両親は、長老たちと友達になりたいとは思っていても、宗教を変えようとは思っていませんでした。「話したいことは全部話してごらん。でも、この家から改宗者は出ませんよ。」これが、初めて話を聞いたときの両親の反応でした。しかし、宣教師たちは大きな信仰と忍耐をもってわたしたちを教え続けてくれました。

ある寒い夜、福音について話し合った後で、わたしたちは長老たちを家まで送って行きました。その帰り道、わたしは母にこう尋ねました。「母さんはこの新しい宗教のバプテスマを受けることを本気で考えているの。」そのときの母の答えには、びっくりしました。こう言ったのです。「もしも真実だと分かたら、バプテスマを受けますよ。」真実かどうか、わたしも自分で突き止めなければならないと思いました。

宣教師との話し合いが、知恵の言葉に従う決心をするという内容になったとき、わたしはこれで終わりだと思いました。母はそれまで16年間も、禁煙しようとしては必ず失敗に終わっていましたし、父は時々、社交の場でお酒を飲んでいました。わたしはというと、よく分からない宗教のために、わざわざ習慣を変える必要などないと思っていたのです。それでも宣教師たちはこう言いました。「福音が回復され、ジョセフ・スミスが神の預言者であったかどうか分かるように祈ってください。」それから奇跡が起きました。母がたばこをやめることができたのです。母は、教会が真実であることを神が教えようとしておられると感じ、バプテスマを受けました。

わたしはモルモン書を読み続け、祈り続けました。そして、モルモン書に対する証^{あかし}を得るやいなや、バプテスマの水に入りました。数週間後、父も同じ決心をし、さらに2年後には弟がバプテスマを決心しました。教会に入ったとき、わたしはまだ13歳でしたが、最高の宝を見つけたという自覚がありました。

わたしたちはアルゼンチン・ブエノスアイレス神殿で永遠の家族として結び固められ、福音が人生にもたらす喜び^{みたま}を見いだしました。振り返ってみると、あのころ神の御霊^{くらやみ}がわたしたちの心に働きかけ、暗闇から光へ出て来られるように助けてくれていたのだということが分かります。

わたしは家族を愛しています。福音を愛しています。宣教師であることが大好きです。今ドアをノックして、「話したいことは全部話してごらん。でも、この家から改宗者は出ませんよ」という言葉を聞くと、わたしはほほえみ、御霊が10年前にわたしの家族に触れたように、この家族の心にも触れまますようにと祈るのです。■

ドン・カルロス・ビダル長老はオレゴン州ユージーン伝道部の専任宣教師です。

教会で受けた 最初の割り当て



地域幹部七十人
ジョン・A・ハリス

自分のルーツが中国、イギリス、ラテンアメリカ、スイスにあると分かったとき、家族歴史を愛する気持ちが強くなりました。

バプテスマを受けて間もなく出席した家族歴史のクラスで、エリヤの霊は心の中に、より大きな明かりをともしました。わたしは祖父母から話を聞くようになり、それを基に家族の記録を記入し、系図表に必要事項を書き込んで、家族歴史を作成し始めました。

バプテスマを受けてから数週間後に、当時16歳だったわたしは支部長から家族歴史のクラスへ出席するようになられました。別に珍しくないこの割り当てがわたしの全生涯を変えたのでした。

ウルグアイではあまり耳にしないハリスという姓（イギリス人だった父の姓を継いでいました）で育ったわたしは、独特な先祖のおかげで、おのずと家族歴史への関心を抱くようになっていました。わたしはスイス人、中国人、イギリス人を先祖に持っていました。家族歴史のクラスに出席することによって、エリヤの霊は心の中に、より大きな明かりをともしました。わたしは祖父母から話を聞くようになり、それを基に家族の記録を記入し、系図表に必要事項を書き込んで、家族歴史を作成し始めました。クラスを修了して間もなく、今度は家族歴史の教師として働く召しを受けました。

それからの数年間、自分の家族歴史を調べている間に何度か霊的な導きを体験しました。それ以来、この大いなる業に携わっているとこのような出来事がだれにもよく起きることが分かってきました。

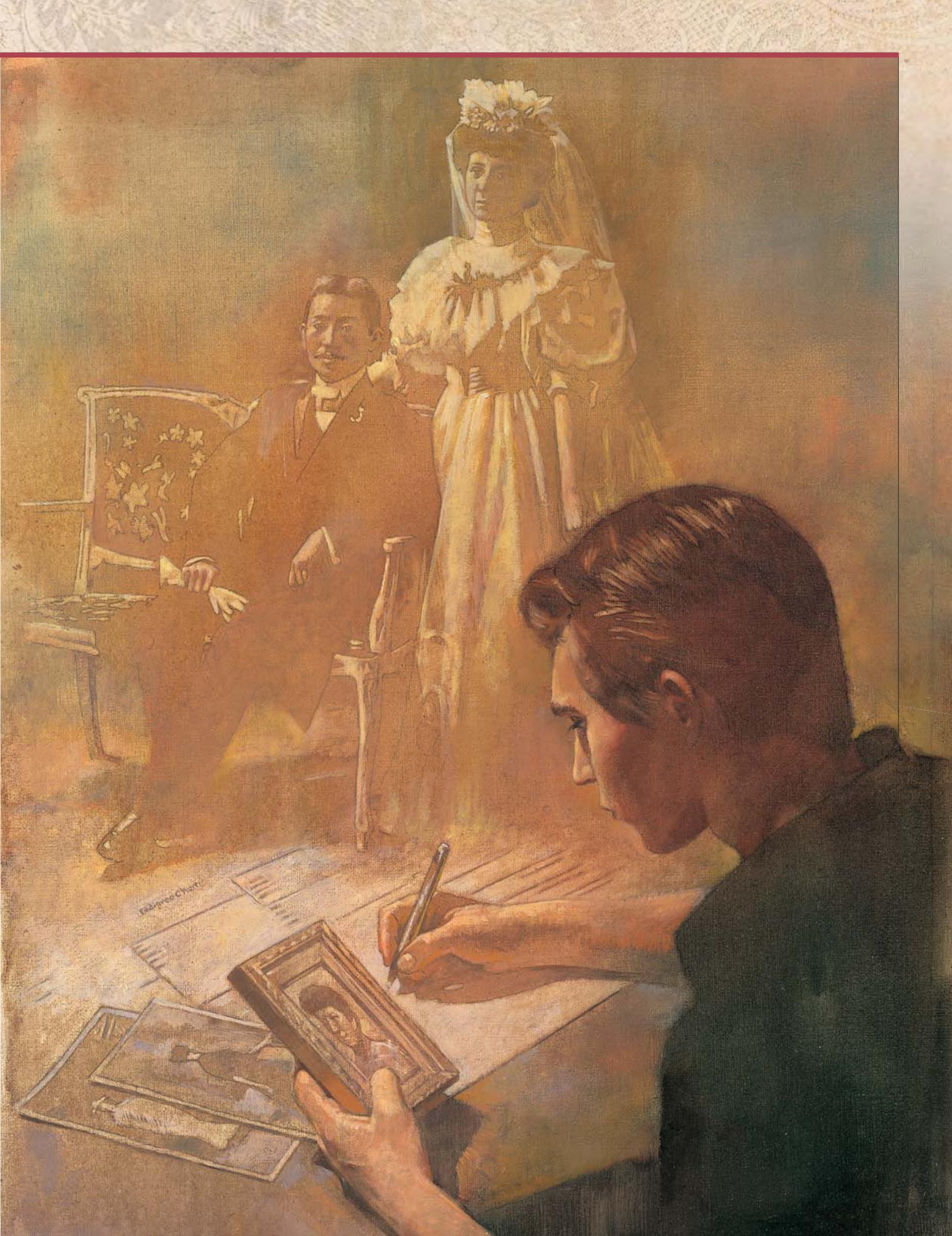
ウルグアイの記録保管庫に収められていた記録

とても珍しい経験をしたのは19歳のときでした。わたしは、伝道部の家族歴史責任者として働く召しを受けたために、副支部長の責任を解任されました。ちょうどソルトレーク・シティの系図部からジョージ・H・ファッジ兄弟が来ることになっていて、その準備をしているときでした。ウルグアイの大切な記録をマイクロフィルムに収めることが、ファッジ兄弟の訪問の目的です。わたしはその手配をするよう指示を受けました。

その晩、言われたことを成し遂げる力を与えられるよう、熱心に祈りました。しばらくすると、「ウルグアイの系図」という新聞の見出しが目にとまりました。近々開かれるウルグアイの系図研究者の集会に関する記事でした。そのとき、新聞が数日前のものであることに気づきました。集会はすでに終わっていましたが、記事に書かれていた集会の場所へ行ってみることにしました。

訪問を決めた晩には、青少年の集会を監督する割り当てを受けていて、午後9時半まで集会所にいなければなりません。バスの切符を買うお金がなかったため、集会が開かれた場所まで歩いて行きました。その所在地に着いたときには、随分遅い時刻になっていました。望みを込めてベルを鳴らしたところ、数分後にドアが開きました。

自己紹介すると、応対に出た人は丁重に招き入れてくれました。次いでその人が言った言葉にわたしは驚きました。「遅い時刻に来てくれてよかったですよ。わたしも今来たところで



仲國叔景
高先民
永廣時之崇日文思
克仕正立

今尚俞光
汝克可效
天兆孔良
余倫在叙
受爾最常

保祐盛罪
其厚定息

Fecha en que se presentó

Nombre de la persona que dio origen al cuadro

Descripción

Ciudad

El número 1 de esta familia es idéntico al número del cuadro número

Cuadro genealógico

イギリス
スイス
中国

トルヒーヨ
カヤオ
ベルー
ウルクアイ

ハリス長老の家族歴史にはスイス、中国、イギリスの先祖が含まれている。

左から——家系を伝える漢詩。スイス人の親戚。ペルーのカヤオにあるスイス人先祖の墓。ハリス長老の祖父のいとこ、エルサ・ハウヨン。結婚当日の祖父母；中国の曾祖父と家族。

す。もしあなたが数分早く来ていたら、この建物にはだれもいませんでしたからね。」問もなく、その人がウルクアイで唯一という系図研究者グループの一員であることを知りました。例の集会の新聞記事は、載せないように言われていたにもかかわらず、掲載されたことも知りました。

こうして、この著名な系図研究者グループとファッジ兄弟との会合を取り決めることができました。彼らは記録保管庫を利用させてくれました。またファッジ兄弟の求めに応じて、ウルクアイの家族歴史記録の索引が、一部マイクロフィルムに収められました。これはウルクアイで教会がマイクロフィルムに収めた最初の記録だったと思います。

家系を伝える漢詩

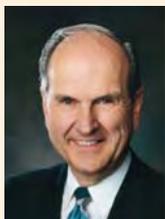
2度目の重大な出来事は、数年後にペルーで伝道する召しを受けたときに起きました。祖父は信仰心のある人ではありませんでしたが、わたしは心から尊敬していました。その祖父は、わたしを伝道に出したくありませんでした。我が家は中国の伝統に従っていて、祖父が一族のあるじでした。生活の中心は家族です。実質的に家族が自分たちの宗教のようなもので、年長者に従い、年長者を敬うことが我が家の道徳律でした。伝道に行く決意を伝えると、祖父は何週間も口を

利いてくれませんでした。伝道に出発する1週間前に、祖父は贈り物をくれました。ひげそりでした。わたしは伝道中ずっとこのひげそりを使い、現在でも大切にしています。祖父は情愛の深い人でした。伝道に対する祖父の気持ちを和らげようと、わたしはペルーで生活している祖父の親戚を見つけるよう努力してみる、と言いました。

伝道に出てから3か月の間に、祖父のおいであるギリエルモ・「ウィリー」・ハウヨンに出会いました。わたしはギリエルモに、家族の漢詩のことを話しました。子供が生まれると、代々そこから一文字を取って名前を付ける漢詩があると聞いていたのです。驚いたことに、彼は一族の漢詩を探してきて、その写しをわたしにくれました。伝道を終えてウルクアイに戻ると、祖父にその詩を手書きで書き写してもらいました。今日、この書は、わたしに祖父と自分の受け継ぎを思い起こさせる貴重なものとなっています。漢詩は48文字の漢字で構成されており、それによって世代をさかのぼることができ、家族関係を知るうえでの貴重な資料となっています。

漢詩を見つけてから数か月後、伝道本部で働いていたときに、わたしはペルーのトルヒーヨを訪れました。そこでエルサ・ハウヨンに出会いました。彼女はそのとき82歳でした。祖父のいここに当たり、わたしの知るかぎり、中国で祖父と

真の理由



「エリヤが訪れたのは先祖の探求を奨励するためだけではありませんでした。家族がこの世の境を越えて永遠に結ば

れることを可能にしたのです。実のところ、わたしたちが先祖を探求するほんとうの理由は家族に永遠の結び固めを受ける機会を提供することです。主は預言者ジョセフ・スミスを通してこのように宣言されました。

「これらは死者と生者に関する原則であり、わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。……わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない……ように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。』〔教義と聖約 128:15〕

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン
「新たな収穫の時」
『聖徒の道』1998年7月号, 38

一緒に育った唯一の親戚であることが分かりました。わたしは彼女と何時間も話して、祖父の兄弟姉妹の名を記録しました。祖父は兄弟姉妹が4人いたと言っていましたが、実際には13人だったことが分かりました。エルサの助けにより、家族をさかのぼって祖父の故郷の町を開いた人物までたどり着くことができました。

ペルー在住のスイス人の先祖

家族歴史に関してもう一つの神聖な出来事も宣教師として働いているときに起きました。わたしはペルーに到着すると、リマの港町カヤオに赴任しました。それはとても不思議なことでした。そのときは知らなかったのですが、スイス人の先祖の墓が、まさしくその市内にあったのです。最終的に、親戚からその墓について聞いたものの、別の都市に転任するまでの間に墓の場所を見つけることができませんでした。

けれども、主はわたしに先祖を見いだすよう望んでおられたと確信しています。宣教師は同じ支部で二度働くことはほとんどありませんが、わたしにはそれが起きました。約1年後にカヤオに戻って来たのです。そして、隣り合わせになっている二つの墓を見つけました。一つはシュラップ家の先祖が埋葬されていた墓で、もう一つの墓にはシュラップ一族の記録（1820年までさかのぼる）が保管されていました。その記録を調べていくと、ついに探し求めていた情報が見つかりました。「エリザベス・シュラップ、57歳、1875年9月16日埋葬；アナ・マリア・シュラップ・クルス、66歳、1918年1月24日埋葬。」こうしてわたしのスイス人の先

祖が見つかりました。

わたしは有頂天でした。ついに自分の家族歴史を4代にわたって完成させることができたのです。任地となるはずの場所がほかに幾つもある中で、主はカヤオに1度どころか2度も呼び寄せてくださいました。そこでスイス人の先祖を見つけることができたのです。

消えることのない感動

こうしたすばらしい出来事はすべて、わたしがバプテスマを受けてから6年の間に起きました。自分の若かった時代を振り返ってみると、教会についてまた教会が神の教会であることについての証は家族歴史活動とエリヤの霊によって強められてきたことを実感します。心を先祖に向けるときに何度も主の力を感じたことを心から証することができます。支部長は、16歳のわたしに家族歴史活動を始めさせるよう靈感を受け、わたしの心に美しい調べを奏でてくれました。それは、この上なく神聖な経験を通して、今日もわたしの心に響いています。■

ジョン・A・ハリス長老はユタ南地域で地域幹部七十人として働いています。



時計回りに左から——中国の伝統衣装を身に着けたハリス長老の祖母。スイス人の先祖の墓標。ハリス長老が宣教師として最初に赴任した市で、プロテスタント教会の墓地の木陰ですっかり荒れていた。エルサ・ハウヨンを変えた中国人親族の家族写真。



友情



七十人
リチャード・H・ウィンケル

すばらしい場所について皆さんにお話ししたいと思います。カリフォルニア北部の沿岸地方には世界一高い木があります。アメリカスギの原生林を歩けば、そのたたずまいに畏敬の念を覚えることでしょう。中には樹齢2,000年を数え、300フィート（約92メートル）以上の高さになるものもあります。これまでの最高記録は367フィート（約113メートル）です。ソルトレーク神殿の1.8倍あります。アメリカスギはほかの針葉樹や広葉樹を見下ろしながら、「生物界のエベレスト」になるのです。

「まことに、季節に応じて地から生じるすべてのものは、人の益と利用のため、目を楽しませ、心を喜ばせるために造られている。

まことに、食物のため、また衣服のため、味のため、また香りのため、体を強くするため、また霊を活気づけるために造られている。

神はこれらのものをすべて人に与えたことを喜んでいる。この目的のためにこれらのものは、思慮分別をもって、度を越さず、貪欲に取ることなく使うように造られたからである。

また、すべてのことの中に神の手を認めない者と、神の戒めに従わない者のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。」（教義と聖約59：18-21）

根が必要である

カリフォルニア沿岸のアメリカスギは確かに森の王者であり、天の御父の見事な被造物です。アメリカスギはその高さと荘厳な美しさゆえに、ほかの木々を従えます。しかし、この巨大な木々には、わたしたちの多くが知らない一つの驚くべき特徴があります。アメリカスギは300フィート（約92メートル）の高さに生長し、重量も100万ポンド（約460トン）を超えますが、根は深くありません。

この張り出した根が仲間のアメリカスギの根と絡み合っています。この網の目のようにからまった根にアメリカスギの強さの秘密があります。



網

深さは3ないし6フィート（約1, 2メートル）ですが、横は何百フィート（100メートル以上）も張り出しているのです。この張り出した根が仲間のアメリカスギやほかの木の根と絡み合い、網の目ようになって木を支えています。たいていの専門家は、根が浅すぎるので強風や洪水には耐えられないと言うでしょう。しかし、網の目のように絡まった根に強さの秘密があり、わたしたちに偉大な教訓を与えてくれます。

この壮大な木々は単独では生きられません。近くの木々とからみ合い、助け合わなければ生き残れないのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の新会員も独りでは生きられません。アメリカスギのように見た目は強く見えるかもしれませんが、彼らにはわたしたちが、わたしたちには彼らが必要です。

支え、愛する

新会員は愛と支えを必要としています。わたしたちが気づいているいないにかかわらず、新会員は助けを求めているのです。ちょうどアメリカスギがマツやツガ、トウヒなどの木に根を伸ばしているのと同じです。わたしたちはまさに兄弟姉妹なのですから、新会員に手を差し伸べ、成長

できるように支えてあげなければなりません。だれでも家族や友人から支えられ、愛されれば力が出ます。木は密生して育った方が、いい木になります。より高く、まっすぐで、強い木になり、いい木材ができます。

わたしはこれまでわたしを育ててくれた友情の網に感謝しています。善い両親から生まれたこと、兄弟姉妹や親族に感謝します。特に妻や子供たちの愛と支えに感謝しています。また、教会内外で多くの友人ができたことに感謝しています。

天の御父は思いやりと知恵に満ちた御方です。御子イエス・キリストとその贖い^{あがな}の犠牲はわたしたち一人一人に感動を与えます。また、この教会が偉大な預言者によって導かれて^{あかし}いることを証します。主がわたしたちすべてを祝福してくださり、互いにさらに結び合い、思いやりを示し合うことができますように。■

この話は、1999年10月の総大会の説教を基に書かれました。



タラント

のたとえ



**イエス・キリストの
弟子たちは
神から頂いた
霊的な賜物を伸ばし、
さらに多くの賜物を見つかるよう
命じられています。**

七十人
ロナルド・A・ラズバンド

親であれば、生まれたばかりの子供の目を見詰めながら、子供の将来について思い巡らしたことがあるのではないのでしょうか。そしてこのように考えるのです。「この子はどんな人生を送るのだろうか。」「この子はどんな目的を持って生まれてきたのだろうか。」「この子がその目的を果たせるよう、親として何をしてあげられるだろうか。」

人は皆、多くのすばらしい素質を授けられています。そして現世の旅の重大な目的の一つに、その素質を伸ばすことがあります。救い主はタラントのたとえを通して、この教訓を力強く教えられました。¹

良い忠実な僕^{しもべ}

イエスは十字架にかけられる数日前に、弟子たちをオリブ山のある場所に連れて行かれました。そこからはエルサレムの町を見下ろすことができました(マタイ24:1, 3参照)。そしてイエスはオリブ山の教えとして知られる教えを説かれたのです。この説教はマタイ第24章と第25章に記されています(教義と聖約45:16-75; ジョセフ・スミス—マタイ1:5-55も参照)。

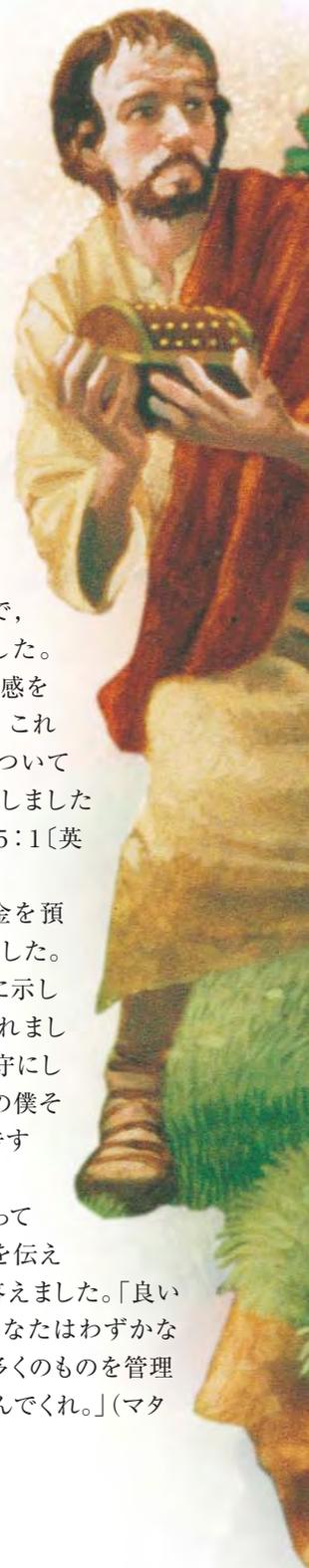
静かで眺めのよいこの場所は、弟子たちにエルサレムの崩壊や御自身の再臨に先立つしるしについてお教えになるのに絶好の場所でした。主の言葉は、弟子たちを非常に悩ませました。イエスは弟子たちを慰めてこうお話し

やいました。「心配することはない。これらすべてのことが起こるとき、あなたがたは、与えられた約束が果たされることが分かるからである。」(教義と聖約45:35)

イエスはこの説教の中で、たとえを幾つか話されました。預言者ジョセフ・スミスは靈感を受けて翻訳した聖書の中で、これらのたとえが終わりの時について述べていることを明らかにしました(ジョセフ・スミス訳マタイ25:1〔英文〕参照)。

イエスは、3人の僕にお金を預けた主人の物語を話されました。金額は、僕たちがそれまでに示してきた能力に応じて決められました。そして主人は長い間留守にしました。帰って来ると、3人の僕それぞれにお金の用途を報告するように言いました。

最初の二人の僕は、預かっていたお金を倍増させたことを伝えました。主人はこのように答えました。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」(マタイ25:21, 23節も参照)





与えられた以上の才能を身に付けた人は、さらに多くの才能を豊かに与えられますが、そうしなかった人は、初めに与えられていた才能をも失うことになるのです。

もう一人の僕

3番目の僕は恐る恐る主人の前に進み出ました。すでにほかの二人の報告を聞いていたこの僕は、自分には同じような報告ができないことが分かっていたのです。僕はこのように言いました。「恐ろしさのあまり、行って、あなたのタラントを地の中に隠しておきました。」(マタイ25:25)主人は怒って、こう命じました。「悪い怠惰な僕よ、……さあ、そのタラントをこの者から取りあげて、10タラントを持っている者にやりなさい。」(マタイ25:26, 28)

そして救い主はこのたとえを解き明かされました。すなわち、与えられた以上の才能を身に付けた人は、さらに多くの才能を豊かに与えられますが、そうしなかった人は、初めに与えられていた才能をも失うことになるのです(マタイ25:28-29参照)。

ほかの才能を身に付ける

人は皆、かけがえのない存在として地上に送られて来ます。家族間では似たような特徴が見られるかもしれませんが、まったく同じ人はこの世に二人と存在しません。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)はこのように記しています。「この世では一人一人に才能と可能性が授けられていますが、その才能と可能性は、前世での生活から、受けるにふさわしいと判断されたものです。律法に従順であったためにある種の才能を得た人もいれば、別の才能を得た人もいます。」²

主は、与えられた才能をそのまま返すだけでは不十分なことを、はっきりと語られました。わたしたちは才能を伸ばし、さらに多くの才能を身に付けなければなりません。より多くの才能を身に付けるのであれば、永遠の喜びを得るであろうと主は約束されました。

主は現代の啓示の中で、このたとえの原則をはっきりと述べられました。「しかし、ある人々については、わたしは心から喜んではない。彼らは……人を恐れて、わたしが与えたタラントを隠しているからである。……あなたは時間を無駄に過ごしてはならず、またタラントを隠して、それが知られないようにしてはならない。」(教義と聖約60:2, 13)

3つの原則

わたしにとってタラントのたとえの教えを実践することは、

難しいことでもあり、祝福でもありました。以下は、教えを実践しようと努力したときに、大いに役立つきた原則です。

主が与えてくださった才能を見つけようと熱心に求める。神から頂いている才能は、好きなことを突き詰めるうちにはっきりと分かるようになります。自分にはどんな才能があるのだろうか悩んでいる人は、好きなことのリストを作ってみてください。生活の様々な分野で楽しんで行っていることをすべて書き出すのです。例えば霊的な分野、音楽、演劇、学業、スポーツの分野などを考えてください。目が開かれて靈感を受けられるよう、祝福師の祝福を研究し、思いを巡らしてください。家族や信頼できる友人、教師、指導者に相談してください。周りの人の方が、自分自身ではよく見えない部分をはっきりと見ていることがよくあります。

わたしはあるすばらしい初等協会の教師のことを覚えています。その教師は、わたしに皆の前で聖句を朗読するよう頻繁に促しました。そしてすてきな声をしていると褒め、読み方が上手だと言いました。彼女の言葉と励ましのおかげで、わたしは自信を得て、主から頂いた才能に幼いころに気づくことができました。

伝道に出ていた19歳のころ、宣教師として役立つ才能に恵まれているか知りたいと切望しました。より良い結果を出せる主の僕になることができるよう、どんな才能であろうとそれを伸ばす方法を知りたいと強く望んだのです。聖文と祝福師の祝福を研究し、熱心に祈り、宣教師として様々な経験を積むうちに、いろいろな才能に気づきました。

才能を用いて、神の王国を築き上げる。わたしたちがまず助けなければならないのは、自分の家族です。

両親は、子供に才能を

伸ばすよう励まし、後押しをする立場にあります。親は頼りになる存在であり、その代わりを果たせる人はいません。また、ほかの人が自分の才能に気づけるよう手助けをする数多くの機会があります。わたしは才能を増し加えるに当たっ



主から頂いた才能を
見つけられるよう
熱心に求め、
神の王国を築くために
用いなければなりません。





て、手を差し伸べてくれた多くの人に感謝しています。才能を伸ばそうと努力する人に手を貸し、後ろ盾となり、助言を与え、元気づけ、その努力がついに開花するとき、わたしたちも大きな喜びを感じ、大いに満足することができるのです。

救い主に仕えることに思いを向けていれば、日々の生活の中で適切な判断を下せるようになります。このような観点に立つことによって、主がいつどのようなことをお求めになっても、応じる備えができるのです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこの大切な態度を模範で示しています。「わたしには衆に優れた才能はないかもしれませんが、人々の生活を祝福するためにそれを用いることはできます。自分の働きにプライドをもって主の業に携わ[る]……ことができます。それは主の御手と御心から来るものです。」³

努力の結果に、主の手があったことを認める。あらゆる才能と能力は神から与えられていることを忘れてはなりません。それを常に覚える必要があります。才能や能力の中には、生まれながら与えられたものもあります。また努力して身に付けたものもあります。いずれの場合も、慈しみ深い天の御父からの賜物^{たまもの}なのです。御父からの祝福は、才能を伸ばし、さらに別の才能を身に付けるための手段にもなります。主はこうに言われました。「また、すべてのことの中に神の手を認めない者……のほか、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない。」(教義と聖約59:21)

わたしは、神が与えてくださった知識に感謝しています。すなわち、わたしたちは神の子供であり、潜在的な能力を十分に発揮して、才能を伸ばし、さらに多くの才能を身に付けていかなければならないのです。最善を尽くして熱心に働き、人を助け、神の王国を築くために才能を用いるならば、主の前に連れて行かれたとき、主はこうに言うべきでしょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」(マタイ25:21) ■

注

1. タラントとはギリシャ語で「天秤^{てんびん}」という意味である。新約聖書の時代では、タラントは金や銀のような金属の重量や価値を表す最大重量単位(1タラントは約34キロ)だった。タラントは硬貨ではなかったが、金額を表していた。(Bible Dictionary, "Money" 733-734, および "Weights and Measures" 788 参照)
2. *Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻(1966-1973年), 第1巻, 688
3. 『聖徒の道』1993年3月号, 8 参照

話し合きましょう

1. 今よりもずっと若いころの写真を家族に見せ、家族にも同じように見せてもらいましょう。この記事の最初の2段落をともに読み、これまでに伸ばしてきた素質について話しましょう。ほかの人にも話してもらいましょう。

2. 第2, 3, 4項目を順番に読んでください。才能を披露するのが怖かったときの経験について話しましょう。ほかの人にも似たような経験を話してもらいましょう。そのような不安を乗り越える方法について話し合ってください。

3. 家族に、この記事の最後の項目でラズバンド長老が挙げた3つの原則に下線を引いてもらいましょう。神から頂いた賜物^{たまもの}を見つけ、伸ばし、その賜物を神の王国を築き上げるために用いるよいアイデアが掲載されています。神から与えられた才能に感謝しましょう。

イエスの
言葉

復活から 昇天まで

「あなたがたは……地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」
(使徒1:8)



七十人
D・リー・トブラー

**40日の務めの間に
エルサレムで
弟子たちに残された
救い主の言葉は、
すばらしい
道しるべとなります。**

イエスの体を十字架から降ろし、ユダヤの習慣に従って愛をこめて埋葬の準備を終えると、主の体が損なわれることを恐れた弟子たちは、遺体をきれいな亜麻布で包み、大きな石で墓の入り口をふさぎました(マタイ27:57-60参照)。その3日後、イエスは死に打ち勝ち、墓からよみがえられました。それから40日間、弟子たちはイエスから教えと導きを受けました。弟子たちにとって、非常に力強い経験であったことでしょう。この期間は弟子たちにとって、イエスの昇天を受け入れる備えとなりました。

この40日の間に残されたイエスの言葉は、約束された主の勝利の再臨に深く思いを巡らせる人にとって、すばらしい道しるべとなります。主はエルサレムの弟子たちに、きわめて重要なメッセージを少なくとも3つ与えられました。(1) 主の復活は現実であり、すべての人がそのすばらしい賜物を受け継ぐ。(2) 主の贖い^{あがな}は完了したが、その祝福を完全に受けるには条件に従わなければならない。(3) 主の弟子たちは福音のメッセージを全世界へ届ける責任がある。

復活は現実である

あの3日目の朝の出来事は、信者、不信者を問わず、強烈な印象を与えました。墓の石が転がされ、キリストの体が消えていたのです。しかし主は、その驚くべき出来事だけにとどまらず、さらに多くの輝かしい訪れによって、御自身の復活が事実であることを示されました。最初は、墓の外で嘆き悲しんでいるマグダラのマリヤへの訪れでした。二人の天使が彼女に現れてこう尋ねます。「女よ、なぜ泣いているのか。」「マリヤは彼らに言った、『だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです。』

そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。

イエスは女に言われた、『女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、『もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』

イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。(ヨハネ20:13-16)

復活された主にまみえたマグダラのマリヤの経験から、偉大な教訓を得ることができます。すなわち、真心から主を求め、ほんとうに主を知りたいと願うならば、主を見いだし、主をありのままに知ることができるということです。マリヤは改心して弟子になり、救い主が亡くなられるまで忠実に従いました。自分自身の経験によって、マリヤは主が生きておられることを知ったのです。

これが、キリストの復活を人が初めて確認したときの出来事です。その後、同様の出来事が続きました。よみがえった主は、エマオへ行く二人の弟子と歩かれました。天使が現れてイエスの体が消えたというわさについて弟子たちが語っていると、主は二人に、「キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」と問われました。そして「モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身〔と復活〕についてしてある事どもを、説きあかされた」のです(ルカ24:26-27)。

さらに救い主は、シモン・ペテロを訪れ、その後11人の使徒や人々の前に御姿を現されました。主は「やすかれ」と言われました。「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」(ルカ24:36, 39)

主の復活を確認するこれらの出来事はどれも偉大な価値がありますが、恐らく最もいきいきと描かれているのは、トマスやほかの人々を8日後に訪れられたときのことでしょう。トマスは最初イエスの復活を疑っていました。イエスは彼



トマスは イエスが 復活された

主であることを疑っていました。トマスの経験は、特別なメッセージになりました。つまり、神聖な事柄を知りたいなら、好奇心よりも信仰を強めなければならぬということです。

にこのような言葉をかけられました。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」トマスはイエスに答えて言いました。「わが主よ、わが神よ。」(ヨハネ20:27-28)このようにして、トマスは主の復活を確認しましたが、同時に、穏やかながらもはっきりとした叱責しっせきも受けることになります。「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである。」(29節)

トマスの経験は、特別なメッセージになりました。つまり、神聖な事柄を知り、神聖な経験にかかわる豊かな祝福をすべて享受したいなら、好奇心よりも信仰を強めなければならないということです。

主の復活を確認する驚異的な出来事は、まだあります。主は御姿を現されましたし、教えを施されました。それに、ガリラヤの岸で7人の弟子とともに食事をされました。そのとき主はペテロに「わたしを愛するか」と聞かれました(ヨハネ21:15-17参照)。そしてこう命じられたのです。「あなたは、わたしに従ってきなさい。」(ヨハネ21:22)キリストの昇天の時を迎えるころまでには、忠実な弟子の中にイエスが不死不滅であられることを疑う者は一人もいませんでした。

主の贖いは完了した

救い主はあることをしきりに弟子たちに理解させようとなさいました。それは、復活は天の御父のすべての子供に広く与えられるけれども、不死不滅になることと永遠の命を受け継ぐことには違いがある、ということです。ヨハネによる福音書第14章で、救い主はすでにその違いについて説明しておられました。

「『わたしの父の家には、[王国]¹がたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意に行くのだから。

そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。

わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている。』

トマスはイエスに言った、『主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう。』

イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、

命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』(2-6節)

現在もなお、御父の子供たちの多くは、その心にトマスの問い(ヨハネ20:25参照)を抱えています。その問いに対する唯一の答えは、今に至るまで、当時与えられたままの救い主のあの答えなのです。つまり、御父の息子や娘はだれ一人として、キリストの贖いにあずからないかぎり神のもとへ帰ることはできないということです。復活された主はガリラヤで弟子たちを教えたとき、全世界が福音を聞かなければならない理由を明らかにされました。「信じてバプテスマを受ける者は救われる。」(マルコ16:16)

マタイはこのときの救い主の言葉をさらに記録しています。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。」(マタイ28:19-20)

したがって、キリストの贖いしよくざいにあずかるには条件があるという結論に至ります。すなわち贖罪は、バプテスマを受け、主の「道」を受け入れ、主の戒めに従って生活するということにかかっているのです。新約聖書から分かるように、主の道は、イエス・キリストを世の贖い主として信じる強い信仰に始まります。

このような信仰を持つ人はバプテスマの聖約に導かれます。バプテスマを受けることにより、主の名を受け、主の戒めを守ると約束するのです。それから引き続き様々な聖約を交わしていきます。主の初期の弟子が実証したように、聖約を守って生活する必要があることを学びます。そうした段階を経た後で初めて、聖霊を通して、救い主の贖いにあずかるにふさわしい者になることができるという、安らかな確信

を受けることができます。イエスは弟子たちにこう告げられました。「ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは……聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう。」(使徒1:5)最終的に、すべての儀式は約束の聖なる御霊みたまによって承認されなければなりません(教義と聖約132:7参照)。罪から解放され、天の御父の前に行くのにふさわしくなるには、主の贖いの効力を受ける以外に方法がないのです。

全世界に福音のメッセージをもたらす

ガリラヤの岸やオリブ山で、主は使徒たちに(そして使徒



イエスの質問に答えて

「ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです。』

イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。」

が召す人々に)ある責任あるいは召しを与えられました。それは、復活と贖罪のメッセージを全世界に伝えるというものです。初めてこの責任について教えたとき、主は一つの質問をされました。弟子たちのために用意された食事について触れ、「イエスはシモン・ペテロに言われた、『ヨハネの子シモンよ、あなたは〔これらのもの〕以上に、わたしを愛するか。』ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです。』イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。」(ヨハネ21:15) イエスが2度目に尋ねられると、ペテロは同じように答えます。それから「イエスは3度目に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』ペテロは『わたしを愛するか』とイエスが3度も言われたので、心をいためてイエスに言った、『主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。』イエスは彼に言われた、『わたしの羊を養いなさい。』(17節)

この初期の弟子たちは、重大な選択をしなければなりません。魚やパンといったこの世のものを優先するか、それとも、永遠の命を求め人に欠かせない、心や霊にかかわる事柄を優先するかという問題です。もしこの世のものを第一にしていたなら、さらに重要な務め——世界中に住む天の御父の子供たちを教える、つまり主の羊を霊的に養うという務め——を果たすのは、困難になっていたことでしょう。

だからこそ主は、昇天の直前にも、この召しについて再び述べられたのです。「あなたがたは……エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」(使徒1:8)

教会の会員であり、キリストの弟子であるわたしたちは、主から与えられたこのチャレンジにこたえられるようになる必要があります。神の預言者たちがすべての会員に、隣人や家族や遠方の人々に福音を伝えましょうと呼びかけるとき、救い主の羊を養う方を選べるでしょうか。それとも、善いことではあってもそれほど重要でないことの方を選ぶでしょうか。自らをよく備えて専任宣教師として働く若い男女や年



輩の夫婦の数が増加しているということは、奉仕の召しを理解し、わきまえている人が多いことを示す心強い証^{あかし}です。地元にとどまっている会員についても、国の内外を問わずに福音を教えなければならないことを理解している人の数はますます増えてきています。キリストの弟子というものは、その偉大なメッセージを広める方法を絶えず探し求めるものだとすることを、わたしたちは今学びつつあるところなのです。

わたしたちは、その日のために準備しています。その日、救い主は戻って来られ、王の王、主の主として統治されます。だからこそ、特にこの教えがますます緊急性を帯びているのです。新約聖書を研究し、光と知恵を求めて祈るならば、自らの神聖な起源について安らぎを得ることができるでしょう。復活、贖い、昇栄が、主イエス・キリストを通して現実になることについて、大きな喜びを見いだすことができるでしょう。わたしたちはこのメッセージをすべての人にもたらしたいと願っています。そうすることで、わたしたちもすべての人も完全な喜びを味わい、皆、主イエス・キリストを通して永遠の命にあずかることが可能になるのです。■

注

1. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 331参照

神の預言者たちがすべての会員に、隣人や家族や遠方の人々に福音を伝えましょうと呼びかけるとき、救い主の羊を養う方を選べるでしょうか。それとも、善いことではあってもそれほど重要でないことの方を選ぶでしょうか。

サリーがほほえんだから

ジェニファー・L・マッケード

不慣れた土地に引っ越して間もないころ、監督から手紙が届きました。ワードへの歓迎と、ホームティーチャーから連絡がまだないことへの謝罪の手紙でした。監督の手紙はありがたく、取っておきましたが、教会にはほとんど足を運びませんでした。それから数年後のある日曜日まで、わたしは活発になるための第一歩を踏み出すことはありませんでした。

その日、教会に行くべきだと感じたわたしは、自宅から最も近い集会所を調べ、びくびくしながら一人で教会へ向かいました。駐車場は車でいっぱいでした。わたしは「あまり活発でない会員」という札をはられた、場違いなよそ者の気分で車を止めました。教会の裏口へ歩いて行くと、前方に、大きなベビーキャリアを抱えながら、子供の手を引いて歩く女性の姿がありました。それだけでも大変なのに、その女性はわたしのために笑顔でドアを押さえ、「こんにちは。サリーよ」とあいさつしてくれたのです。わたしはサリーの思わぬ歓迎に驚きながらあいさつを返しました。サリーが廊下を歩いて行く姿を見ながら、教会に来てよかったと思いました。

両手がふさがっているにもかかわらず、その女性はわたしのために笑顔でドアを押さえ、「こんにちは。サリーよ」とあいさつしてくれたのです。

監督が新しく生まれた赤ちゃんの祝福を断食証会^{あかしかい}で発表したとき、この知り合ったばかりの友人が、前に進み出ようとするご主人に赤ちゃんを渡すのを見て驚きました。その日、赤ちゃんの祝福を行う予定だったにもかかわらず、サリーはわたしにあいさつをする時間を惜しまなかったのです。恥ずかしながら、もし

自分が赤ちゃんを産んだばかりだったら、見知らぬ女性にあいさつする余裕はないだろうと思いました。

活発になるまでの過程はゆっくりとしたものでしたが、サリーをはじめ、親切な会員がわたしに友情を示し続けてくれました。熱心な訪問教師は毎月訪問を重ね、ワードの優しい会員たちはステーク



絵/フレイマン・コール

大会や集会時間の変更について知らせてくれました。また、独身成人の指導者は、「顔を出すかもしれません」というわたしの丁寧な返事が、ほんとうは「行くつもりはありません」という答えを暗示していると分かっている、いつも活動に招待してくれたのです。そしてついに、彼らの努力は報われました。

サリーのあいさつには、計画や時間は必要ありませんでした。けれども彼女のその親切な行いは、わたしが教会に活発になり祝福を受けられるよう扉を開けてくれたのです。あれから何年も過ぎた今でも、サリーのほほえみがもたらしてくれたものについて思い返します。■

ジェニファー・L・マッケードはジョージア州パウダースプリングズステーク、リシアスプリングズワードの会員です。

憤りを捨てよ

ワンダ・ジョー・クック

聖典は天の御父のすべての子供に向けて書かれたものですが、よく心に思い図り、具体的な問題に当てはめると、とても個人的に響いてくることがあります。数年前、あるつらい状況に直面したときもそうでした。

夫とわたしにとって、チャレンジの多い時期でした。夫が失業したばかりで、わたしのわずかな収入で生活しようと経済的に苦闘していました。幸い、これらの苦難は互いへの愛と、ワードの仲のいい友人たちの愛によって和らげられました。

ところが、事態はさらに悪い方へと転じたのです。

ある日職場で、同僚から事務室へ来てほしいと電話で呼ばれました。共同で取り組んでいたプロジェクトについて話し合いたいのだと思い、わたしは彼の事務室へ行きました。しかし驚いたことに、同僚はわたしのある行為に対して強い反感を示したのです。謝罪しても同僚はとがめ続け、彼にとっては耐え難い、わたしの個性を幾つか指摘してきました。わたしはショックのあまり、どう反応してよいか分かりませんでした。この男性の手腕を実にすばらしいと思っていましたし、互いの関係も問題なくいっていると思っていました。何よりも、なぜ彼がわたしを責める立場にあると考えたのか理解できませんでした。会社の組織ではわたしの方が数段上の役職にあったのです。

どなり声はわたしが泣きだすまで続きました。気持ちが落ち着いてからも、彼をそこまで怒らせたのは何だったのか、まだ理解できませんでした。どうやら同僚自身の生活に悲惨なことが起り、不幸にもその腹いせの相手にわたしが選ばれてしまったようでした。

この出来事について上司に告げても、ほとんど取り合ってもらえませんでした。この経験によってわたしは落胆し、孤独を感じ、心は傷つきました。ただでさえ、わたしたち夫婦は夫の失業で不安を感じているのに、わたしまで職を失ったらどうなるのだろうと思いました。

その夜、家に帰り、夫にその日の出来事を説明しました。夫は聖典を開いて詩篇の第37篇を読み、今日聖文を研究していたときにどうしてそこを読むように促されたのかがやっと分かったと言いました。

詩篇にはこのように記されていました。「怒りをやめ、憤りを捨てよ。心を悩ますな、これはただ悪を行うに至るのみだ。……

悪しき者はつるぎを抜き、弓を張〔る。〕……

正しい人の救は主から出る。主は彼らの悩みの時の避け所である。

主は彼らを助け〔られ〕る。』(詩篇37:8, 14, 39-40)

詩篇のこの部分は以前に何度か読んだことがありましたが、あまりにも自分の状況に合っているため驚嘆しました。夫がこの聖句を読んでくれていなかったら、職場での経験を理由に怒りと憎しみにあふれていたでしょう。しかし、天の御父が聖典を通して伝えてくださったメッセージは、わたしの心を慰め、怒りを静めて憎しみを捨てるよう教えてくれました。そして、そのメッセージを心に留めることにより得られるであろう多くの祝福に気づくことで、大きな希望を抱くことができたのです。

翌日、わたしは喜びと救いの気持ちをもって出勤しました。そして、同僚たちの短所に目をつぶれるようになっていたのです。

この経験から得た霊的な成長は、わたしにとって貴重な力の源となりました。それ以来、何度も思い返しています。普遍でありながら一人一人に語りかけてくれる聖典に感謝します。■

ワンダ・ジョー・クックはテネシー州チャタヌーガステーク、ヒクソンワードの会員です。

「天のお父様の愛」

リカルド・ロベス・デ・メンドンサ

これから子供を迎える多くの夫婦と同じように、わたしたちも初めての子供の誕生を待ちわびていました。子供服や家具を準備し、二つの名前を選びました。男の子の名前と女の子の名前、それぞれ一つずつです。

また、妊娠期間中におなかの赤ちゃんにずっと歌ってあげる特別な歌も選びました。わたしたちが選んだ歌は「天のお父様の愛」(『子供の歌集』16-17)です。この歌を何度も歌いながら、家族に赤ちゃんを迎えるすばらしさについて思いをはせました。

鳥のさえずり聞いたり、青空見たり
雨が頬、ぬらしたり、風が通り過ぎたり
ばらにそっと触れたりするときいつも
造り主お父様を思い感謝します

ある朝、妻が起きると、体中に小さな赤い斑点ができていました。医者に行ってみると、この小さな赤い斑点が風疹であることが分かりました。医者はさらに、妻が妊娠3か月であるため、赤ちゃんに先天的な視覚障害や聴覚障害、あるいはその他の障害が残る可能性が高いという不安な言葉を告げました。

その夜は、歌の2節の歌詞を特に心に留めました。

美しい蝶々を見る目を下さった
聞く耳も心も神様が下さった
わたしの命も皆、お父様の
愛により造られたと
わたしは分かります



わたしたちは、
妊娠期間中に
おなかの
赤ちゃんにずっと歌って
あげる特別な歌を選び
ました。そしてその歌を
何度も歌いながら、家族
に赤ちゃんを迎える
すばらしさについて
思いをはせました。

将来について、また起こり得るすべてのことについて考えました。天の御父の御心を受け入れるために何度も祈り、断食しました。どんなことがあっても、主がともにいてくださると信じていました。

娘のアリスは、予定日より1か月早く生まれました。アリスが誕生すると、風疹の影響を調べるために無数の検査が行われました。何も問題がなかったのです。ある人は奇跡かもしれないと言いました。わたしたちは何の疑いもなく、それが奇跡であったと確信しています。

アリスは今7歳になり、お気に入りの歌「天のお父様の愛」を歌うことが大好きです。わたしたちは永遠に感謝してや

みませんが、同時に、困難な状況が必ずしもこのような良い結果に終わるわけではないことを知っています。試練はこの世の試しの一部であるからです。しかし、主を信頼すれば何も恐れることはないと学びました。なぜなら、歌にあるように、すべては「お父様の愛により造られたと、わたしは分か[る]」からです。■
リカルド・ロベス・デ・メンドンサはブラジル・ソロカーバ・トルヒーヨステーク、パルケ・ダス・ラアンハイアスワードの会員です。

かぎ 裏口の鍵を 閉めなさい!

ケリー・アレン・プラット

結 婚して間もないころ、わたしたちはアラスカ州アンカレジに住んでいました。ある晩、深い眠りから覚めると、不安が心に差し迫ってきました。夫を起こし、家の裏側にあるガラスの引き戸に鍵をかけたか尋ねました。夫はかけたと言いました。わたしはその不安を振り払って再び寝ようと思いました。気にしすぎだと自分に言い聞かせました。けれども、ドアの鍵を閉めなければならないという気持ちは一向に消えなかったのです。とうとう眠れなくなりました。そして、心の中ではっきりと聞こえたのです。「ケリー、裏口の鍵を閉めなさい!」

わたしは暖かい寢床を離れ、1階へ下りました。ガラス戸は鍵がかかっているようでした。寢室へ戻ろうとしましたが、ガラス戸の取っ手を引いてみると、戸

が開いたのです! 鍵はかけてありましたが、戸がしっかり閉まっていなかったため、鍵が役に立っていなかったのです。わたしは戸を完全に閉め、しっかり鍵をかけ、寢床に戻りました。

翌朝、わたしは前の晩の経験をさほど気に留めていませんでした。しかし、カーテンを開けたとき、雪上のあるものが目に留まりました。大きな足跡です。戸口まで来て戻って行った形跡がありました。わたしが懸命に振り払おうとしたあの思いは、不審者が家に侵入するのを防ぐためのものだったのです。

あの寒い冬の晩に家族を守ってください

った聖霊の促しにととても感謝しています。この経験を通して、聖霊に耳を傾けるわたしの態度は永遠に変わりました。

ケリー・アレン・プラットはユタ州ハイランド東ステーク、ハイランド第3ワードの会員です。

あ
る晩、深い眠りから
覚めると、不安が心に
差し迫ってきました。
「ケリー、裏口の鍵を閉めなさい!」



セミナーで祝福を受けて

ファン・ミゲル・アギーレ・エンカルナシオン

17歳のとき、友人のジュリーがペルー・リマのワードで行われているセミナーに誘ってくれました。旧約聖書にちょっとした興味があったので、誘いに応じました。

ジュリーのおばさん、ローザ・デアリアガ姉妹がセミナーの教師を務めていて、毎日だれかに祈りをお願いしてからレッスンを始めていました。セミナーに出席し続けるうちに聖典をさらに愛する気持ちがはぐくまれただけでなく、祈りの方法も学びました。ある日、わたしはアリアガ姉妹から、クラスを代表して祈るように頼まれました。信じられないほど素晴らしい経験でした。心が熱く燃え、体中が温かくなりました。涙が出そうでした。

ある土曜日、ユースカンファレンスに参加することになりました。たくさんの若人に会い、活動を楽しみました。同じ日の午後、ジーンズとスニーカーで集会へ行くと、驚いたことに、ほかの人は皆スーツとネクタイを着けていました。居心地が悪くなりましたが、一人の男の人がほほえんで部屋に入るように合図してくれました。集会で話を聞いていると、何もかも聞き覚えがあるように思われました。

集会後、わたしはアリアガ姉妹に報告しようと彼女の家へ行きました。アリアガ姉妹の息子はほほえみながら次のように言いました。「明日の日曜日の集会にはそのかっこうで来られないよ。」

翌日、生まれて初めてネクタイを

着けて集会へ行きました。集会の整然さ、そして会員の優しい態度に感銘を受けました。胸に再びあの温かい気持ちがあり、その気持ちは集会中ずっと続きました。聖歌隊が歌ったとき、泣きたくまりました。とても素晴らしい気持ちだったので、いつも抱いていたいと思いました。

セミナーで最初のレッスンを受けてから1か月後に宣教師から福音を学び始めました。1996年4月28日にバプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会に入りました。その6か月後に母と姉妹がバプテスマを受け、さらに1か月後に父も受けました。そして1998年1月31日、家族そろってペルー・リマ神殿で結び固めを受けたのです。

わたしは後にペルー・リマ北伝道部で専任宣教師として奉仕しました。伝道後は3年間、ペルー宣教師訓練センターで

教えました。かつては締めたことがなかったネクタイも、今ではごく日常的なことになりました。

わたしと家族にこれらの祝福が次々と注がれるよう助けてくれた、友人のジュリーとセミナー教師のアリアガ姉妹にいつまでも感謝します。■

ファン・ミゲル・アギーレ・エンカルナシオンはペルー・リマ・チョリヨスステーク、ロスラウレスワードの会員です。

ジーンズとスニーカー
で集会へ行くと、
驚いたことに、
ほかの人は皆スーツと
ネクタイを着けて
いました。



御存じでしたか？



「義人の歌」

賛美歌を歌うことは、末日聖徒の礼拝において常にはならないものでした。1830年に、主はエマ・スミスに「神聖な賛美歌の選定をする」よう命じられました。(教義と聖約25:11) それに続く5年間は、エマ・スミス自身

にとっても教会歴史においても非常に困難な時期でしたが、エマは、有能なウィリアム・W・フェルプスの助けを得て、賛美歌を集め、書き改めました。そして1835年8月に、ついに教会にとって初めての賛美歌集が出版されたのです。

エマが編さんした『末日聖徒教会のための賛美歌選集』(A Collection of Sacred Hymns for the Church of the Latter Day Saints) [英文]には、90曲の賛美歌が収められていました。初期の聖徒たちは、福音の回復についての教義と信仰を表す新たな歌詞が必要であると感じていたことから、90曲のうちの30ないし40曲の歌詞が、末日聖徒によって書かれました。エマが編さんした賛美歌集のうち26曲は、現在使われている英語版の『賛美歌』にも載っています。



指導者へのヒント

人づきあいが上手になりたいなら、自分に自信を持つためにボランティア活動をしてみてはどうでしょう。また、学校や地域の奉仕活動に参加したり、スポーツ団体に加入したりするのもよいでしょう。そのような団体に所属し、有意義な活動に参加すれば、生活の様々な場面でうまく人とつきあえるようになります。

それは8月の出来事でした

教会歴史の中で8月に起こった重要な出来事を幾つか紹介します。

1831年8月2日

—ミズーリ州ジャクソン郡

で執り行われた儀式で、シドニー・リグドン(右)は、「シオンの地」を聖徒の集合する地として奉献しました。その翌日、預言者ジョセフ・スミスが、同じくミズーリ州のインディペンデンス(上)で、ある

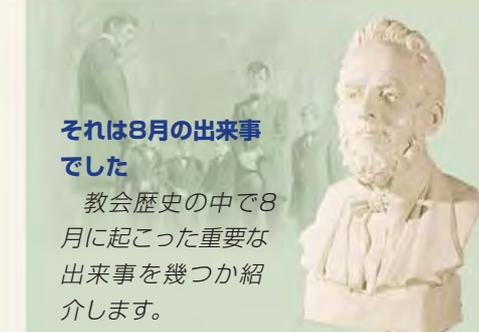
場所を将来の神殿建設地として奉献しました。

1878年8月25日

—オーレリア・スペンサー・ロジャーズ

(左)によって創設された初めての初等協会が、ユタ州ファーマントンで開かれました。それから2年を経ずして、1880年6月19日に、全教会規模の初等協会が設立され、ルーイ・ボートン・フェルトが初代会長に

召されました。



オンライン美術館

教会歴史美術博物館の展示品は、www.lds.org/museumで鑑賞することができます。博物館巡りを疑似体験してみたり、博物館が主催した国際美術コンテストの入賞者の作品を見たりしてください。

国際美術コンテストは3年ごとに開かれています。次回の申し込み期限は2005年11月です。出品に当たっては、参加申込書に必要事項を明記し、作品の写真を電子メールで churchmuseum@ldschurch.org に送ってください。申込み用紙を請求したい人も同じアドレスに連絡してください。ウェブサイトおよび申し込み用紙は、英語版、フランス語版、ドイツ語版、日本語版、ポルトガル語版、ロシア語版、スペイン語版があります。

左上から、「選ばれた婦人」リス・レモン・スウィンドル画。賛美歌集の写真/ランドール・J・ピックストン。「ミズーリ州インディペンデンスの神殿用地の奉献」デール・キルボーン画。シドニー・リグドンの胸像/エド・フロートン作。「オーレリア・スペンサー・ロジャーズ」ルーイ・フェルト・キーソ画。絵の具ばけの写真 ©PHOTODISC



「備えのできた5人」J・カーク・リチャーズ画

「そこで天国は、10人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て行くのに似ている。
その中の5人は思慮が浅く、5人は思慮深い者であった。思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが、油を用意していなかった。
しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。」(マタイ25:1-4)



「^{はん} ^{りょ}伴 侶を失い悲しみに暮れている人、父親のいない子供など、
至る所にいる孤独な人々は、わたしたちの奉仕によって
喜びと慰めを得、力づけられます。そしてわたしたちはヤ
コブの手紙に記録された次の言葉をいっそう深く理解するのです。
『父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、
やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことに
ほかならない。』」

トーマス・S・モンソン副管長「父親、夫を失った人への神の愛」2ページ
参照